



Joystick/Sound/MIDI PC Card

REX-5571/9871/4871

ユーザーズマニュアル



1997年8月

第3.0版

RATOC
ラトックシステム株式会社

目次

はじめに.....	1
ご注意	1
製品の特徴.....	1
安全にお使いいただくために必ずお読みください.....	2
本文中の記号説明.....	2
製品に関するお問い合わせ.....	4
1 . Sound/Joystick PC カードについて.....	1-1
対応パソコン.....	1-1
対応 OS(オペレーティングシステム)	1-2
添付品について.....	1-2
制限	1-3
2 . ハードウェアのセットアップ.....	2-1
BOX ケーブルの構成図.....	2-1
MIDI 音源、楽器の接続.....	2-2
PC カードスロットの電源供給の確認.....	2-3
オートパワーダウン機能を解除.....	2-3
Sound/Joystick PC カードとBOX ケーブルの接続.....	2-3
Sound/Joystick PC カードのスロットへの装着.....	2-3
FDD がPC カードスロット接続の場合.....	2-4
3 . Windows 95 での使用方法.....	3-1
機能の決定.....	3-2
Windows 95 へのインストール.....	3-4
ドライバの確認.....	3-8
リソースの変更.....	3-10
ドライバの削除.....	3-10
ドライバの変更.....	3-10
内蔵サウンド機能を無効にする.....	3-11
更新選択でインストールが始まる時.....	3-12
4 . Windows NT 4.0 での使用方法.....	4-1
Windows NT 4.0 へのインストールのまえに.....	4-1
インストールの手順.....	4-2
Sound/Joystick PC カードの登録.....	4-3
リソースの確認.....	4-5
サウンドドライバのインストール.....	4-6
ジョイスティックドライバのインストール.....	4-8
ドライバの削除.....	4-10

目次

5	. DOS/Windows 3.1 での使用方法	5-1
	DOS/Windows 3.1 へのインストールのまえに.....	5-1
	Windows3.1 でのセットアップ.....	5-1
	DOS 用ドライバ(イネーブラ).....	5-4
	全ドライバ共通のオプション.....	5-5
	REX5571.SYS, REX71DBK.SYS, REX71365.SYS 共通オプション.....	5-6
	REX5571.SYS, REX9871.SYS, REX4871.SYS 共通オプション.....	5-6
	REX71DBK.SYS, REX71365.SYS 固有のオプション.....	5-6
	PC カードドライバについて.....	5-7
	対応するカードサービスについて.....	5-7
	「DATABOOK CardTalk」について.....	5-8
	「PCMCCU」について.....	5-8
	カードサービスがない場合(REX-5571 のみ).....	5-8
	別途カードサービス用意する.....	5-8
	カードサービスを使用しない.....	5-9
	PCMICA コントローラ(i82365)の確認方法.....	5-9
	システム起動時のエラーについて.....	5-10
	SystemSoft 版カードサービス起動時のエラー.....	5-10
	Phoenix Technologies 版カードサービス起動時のエラー.....	5-10
6	. オーディオラックの使用方法	6-1
	オーディオラックについて.....	6-1
	ミキサーの操作方法.....	6-2
	オーディオプレーヤーの操作方法(Windows 95 のみ).....	6-3
	MIDI プレーヤーの操作方法.....	6-4
	CD プレーヤーの操作方法(Windows 95 のみ).....	6-5
7	. オーディオレコーダの使用方法	7-1
	オーディオレコーダについて.....	7-1
	オーディオレコーダの使用法.....	7-1
	オーディオレコーダメニューコマンド.....	7-2
	ツールバー.....	7-3
	録音方法.....	7-4
	サウンドファイルの再生.....	7-4
	サウンドファイルの編集.....	7-5
	エフェクトによるファイルの編集.....	7-6
	文書への貼り付け.....	7-6
	サウンドファイルのプロパティ.....	7-6

目次

8	. トラブルシューティング.....	8-1
	Microsoft SideWinder 3D Pro を使用する場合.....	8-1
	Joystick を使用できない場合.....	8-1
	システム資源のIRQ に空きがない場合.....	8-2
	スピーカからの出力が非常に小さい場合.....	8-2
	その他のデバイスに ?PCMCIA Card がある場合.....	8-2
	ドライバをインストールしたが、音が出ない。.....	8-3
	Windows 3.1 起動時にエラーメッセージが表示される.....	8-3
9	. 付録.....	9-1
	製品仕様.....	9-1

はじめに

このたびはサウンド/ジョイスティック PC カード REX-5571/9871/4871 シリーズをお買い上げいただきありがとうございます。未永くご愛用承りますようお願い申し上げます。本書は REX-5571/9871/4871 シリーズの導入ならびに使用方法を説明したマニュアルです。REX-5571/9871/4871 シリーズを正しくお使いいただくため、ご使用前に本書をよくお読みください。

本書は、REX-5571/9871/4871 シリーズ共通マニュアルのためご購入頂いた製品に直接関係しない部分の説明も含まれますが予めご了承ください。また、特に断りのない場合 REX-5571/9871/4871 シリーズを「Sound/Joystick PC カード」と表記します。

ご注意

- ・ 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書の内容につきましては万全を期して作成しましたが、万一ご不審な点や誤りなどにお気づきになりましたらご連絡願います。
- ・ 運用の結果につきましては、責任を負いかねますので、予めご了承ください。
- ・ 本製品の保証や修理に関しては、添付の保証書に記載されております。必ず内容をご確認の上、大切に保管してください。
- ・ MS-DOS、Windows、Windows NT は米国マイクロソフト社の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ 本製品および本製品添付のマニュアルに記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

製品の特徴

- ・ ジョイスティックとサウンド MIDI が 1 枚の PC カードで使用できます。
- ・ Windows 95 の Plug and Play を提供します。
- ・ Windows 95、Windows NT4.0、DOS/Windows 3.1 で使用できます。
- ・ WAVE ファイルの録音・再生が可能です。
- ・ FM シンセサイザによる MIDI ファイルの再生が可能です。
- ・ MIDI 音源、MIDI 楽器への接続が可能です。
- ・ ゲーム用サウンドボード AdLib 互換です。
- ・ IBM-PC 互換ジョイスティックの接続が可能です。
- ・ SideWinder 3D Pro 、GAMEPAD に対応しています。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

このユーザーズマニュアルには、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止し、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項が示されています。表記と記号の意味は次のようになっています。内容を理解してからお読みください。

本文中の記号説明

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いを行うと人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いを行うと人が負傷を負う可能性が想定される内容および物的損害が想定される内容を示しています。
ご注意	この表示は、本製品を取り扱う上での注意事項を示しています。



分解禁止：発火のおそれがあります

PC カード、BOX ケーブル、および BOX(Joystick MIDI 端子)の分解や改造等は絶対に行わないでください。



ボリュームは最小にしてください。スピーカ端子の取り扱いには十分注意してください。耳を傷める可能性があります。

BOX ケーブルにヘッドフォンを接続する場合は耳からはずし、ボリュームを最小にしておいてください。



煙が出たり、変な臭いがする場合は、だだちにパソコンや周辺機器の電源を切り、電源ケーブル等もコンセントから抜いてください。

必ず、販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。



PC カード、BOX ケーブルが濡れた場合、ショートによる火災や感電のおそれがあるため使用しないでください。

必ず、販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。



PCカード、BOXケーブルは電子機器ですので静電気を与えないようにしてください。



ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズを与え誤動作することがあります。



モータなどノイズを発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してご使用ください。



本製品（ソフトウェアを含む）は、日本国内仕様です。日本国外で使用された場合の責任は負いかねます。



本製品は、医療機器、原子力機器、航空宇宙機器、輸送設備など人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備、機器での使用は意図されておりません。これらの設備、機器制御システムに本製品を使用し、本製品の故障により人身事故、火災事故などが発生しても弊社ではいかなる責任も負いかねます。



保管に関するご注意：

本製品を保管する場合、故障の原因となりますので次のような場所での保管は避けてください。

- ◆ 直射日光の当たる場所や異常に温度が高くなる場所、暖房器具等の近く、温度差の激しい場所
- ◆ チリやほこり、湿気の多い場所
- ◆ 振動や衝撃の加わる場所
- ◆ スピーカ等の磁気を帯びたものの近く

製品に関するお問い合わせ

本製品に関するご質問がございましたら、下記までお問い合わせください。

ラトックシステム株式会社
サポートセンター
〒556
大阪市浪速区敷津東 1-6-14 朝日なんばビル
TEL 06-633-6766
月～金 10:00～17:00 土曜、日曜および祝日を除く
FAXでの受付は24時間行っております。
FAX 06-633-3553

また、NIFTY Serve の以下のフォーラムでも受け付けております。

PC Vendor STATION E
(SPCVE)
電子会議室8番「ユーザサポート」

インターネットのホームページでも最新の情報をお届けしております。

ラトックシステムのホームページ
<http://www.rexpccard.co.jp>

お問い合わせの際には、最後のページの「質問用紙」に必要事項を記入の上、上記 FAX 番号までお送りください。折り返し弊社より電話または FAX にて回答いたします。ご質問に対する回答は上記営業時間内の処理となりますのでご了承ください。また、ご質問の内容によりましてはテスト・チェック等の関係上、時間がかかる場合もございますので予めご了承ください。

1. Sound/Joystick PC カードについて

Sound/Joystick PCカードはPC Card Standard以降のPCカード規格に準拠したマルチファンクションPCカードです。

・サウンド機能に関しては、ステレオ44.1kHzまでのウェーブファイルの再生・録音を行います。内蔵のFMシンセサイザを使ったMIDIファイルの再生を行います。MIDI音源、MIDI機器との接続を行います。

・ジョイスティック機能に関しては、市販のIBM-PC互換機用ジョイスティックを接続できません。また、Microsoft SideWinder 3D Pro、GAMEPADに対応しています。

Sound/Joystick PCカードはこれら複数の機能を1つのIRQで実現しますので、大切な資源を有効に使用します。

ジョイスティック機能は、NEC PC-98シリーズおよびEPSON PCシリーズ（PC-98互換）のDOS/Windows 3.1では、使用できません。

対応パソコン

REX-5571

PC/AT互換パソコン（DOS/Vパソコン）

REX-9871

PC-9801およびPC-9821シリーズパソコン

REX-4871

EPSON 98互換機パソコン

それぞれパソコンに対応した製品をお使いください。

ただし、一部の機種では制限があったり正常に動作しない場合もありますので、メーカー名および機種型番の詳細については弊社サポートセンターに直接ご確認ください。

第1章 Sound/Joystick PC カードについて

対応OS(オペレーティングシステム)

本製品は以下のオペレーティングシステムに対応しています。

- Windows 95、95a、95B
- Windows NT4.0
- DOS/Windows 3.1

EPSON 98互換パソコンでは、Windows NT4.0をサポートしておりません。

添付品について

REX-5571/9871/4871には以下のものが添付されています。不足の場合には、弊社サポートセンターまたは販売店にご連絡ください。

PC カード	1
BOX ケーブル (Joystick ポート付き、MIDI 接続端子付き)	1
エレクトレットコンデンサマイク (モノラル)	1
ステレオイヤホン	1
フロッピーディスク	3 (合計)
ドライバディスク for Windows 95,Windows NT4.0(注1)	
ドライバディスク for DOS/Windows 3.1(注1)	
Windows 95 専用 AudioRack 95(注1)	
ユーザズマニュアル	1
ご愛用者登録ハガキ / 保証書(注2)	1

(注1) フロッピーディスクの媒体は、3.5 インチ 1.44MB です。

(注2) ご愛用者登録カードは保証書を切り離した後、必要事項を記入の上必ずご返送ください。ご返送頂けない場合、バージョンアップ等のサポートサービスは受けられませんのでご注意ください。

制限

- サウンドの再生をパソコン本体の内蔵スピーカから出力する機能はありません。
- スピーカは、アンプ付きスピーカが必要です。
- オーディオCDの音声は本カードからは出力されません。CD-ROMドライブのライン出力またはヘッドフォン端子から出力されます。
- 本製品のサウンド機能は、全2重（録音と再生を同時）には対応していません。
- MS-DOS用のゲームをWindows 95のDOSモードで動作させる場合はカードが正常に作動しません。
- 接続可能なジョイスティックは、IBM PC/AT用ジョイスティックのみです。アタリ社仕様やPC-98専用ジョイスティックには対応していません。
- すでにサウンド機能を搭載したパソコンでは、本カードのサウンド機能をご使用頂けない場合があります。

パソコン本体の設定でサウンド機能を無効にできるか確認してください。

Windows 95の場合では、[コントロールパネル] => [マルチメディア] => [詳細設定] で本体のオーディオデバイスを使わないように設定できるか確認してください。

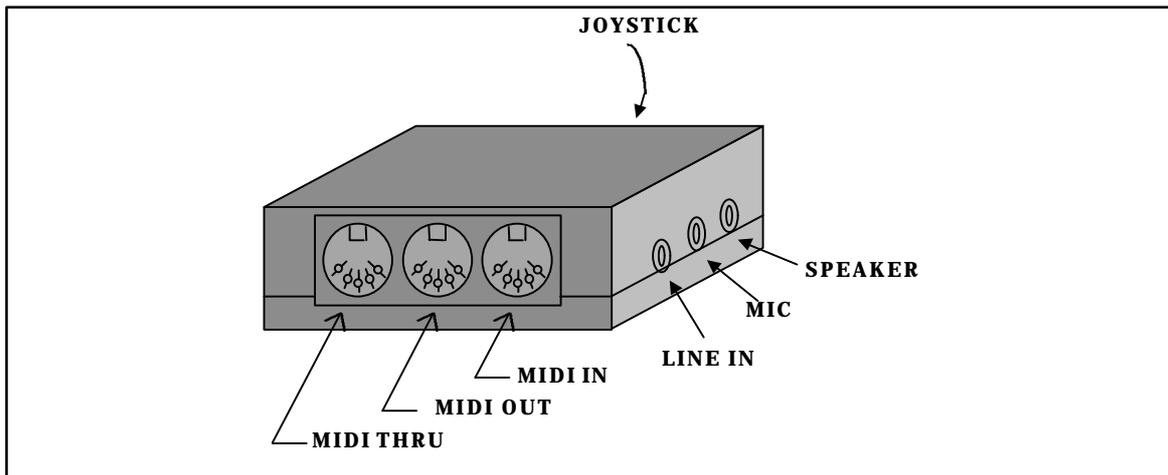
- パソコンの機種によってはレジューム操作後に、サウンド機能が使用できないことがあります。この場合、パソコン本体を再起動してください。
- PCカードおよび添付ドライバは、Windows 95の活線挿抜に対応していますが、WAVEファイルやMIDIファイルの再生中にはカードは抜かないようにしてください。
「活線挿抜」とはPCカードを抜いても、再度挿入すると再び使用可能な状態になる機能のことです。
- ハードディスクレコーディングを行う場合、ハードディスクへのデータ書き込み時に録音データが一瞬途切れます。
- オーディオレコーダはロングファイルネームに対応していません。
- MIDIプレーヤーの曲データ表示部で日本語ファイル名が表示できません。
- MS-DOS上でのWAVEファイル録音・再生機能、MIDIファイル再生機能はサポートしていません。
- ジョイスティック機能は、NEC PC-98シリーズおよびEPSON PCシリーズ（PC-98互換）のDOS/Windows 3.1では、使用できません

2. ハードウェアのセットアップ

BOX ケーブル (Joystick ポート付き、MIDI 接続端子付き) の構成図を示します。

BOX ケーブルの構成図

各端子は以下のように配置されています。

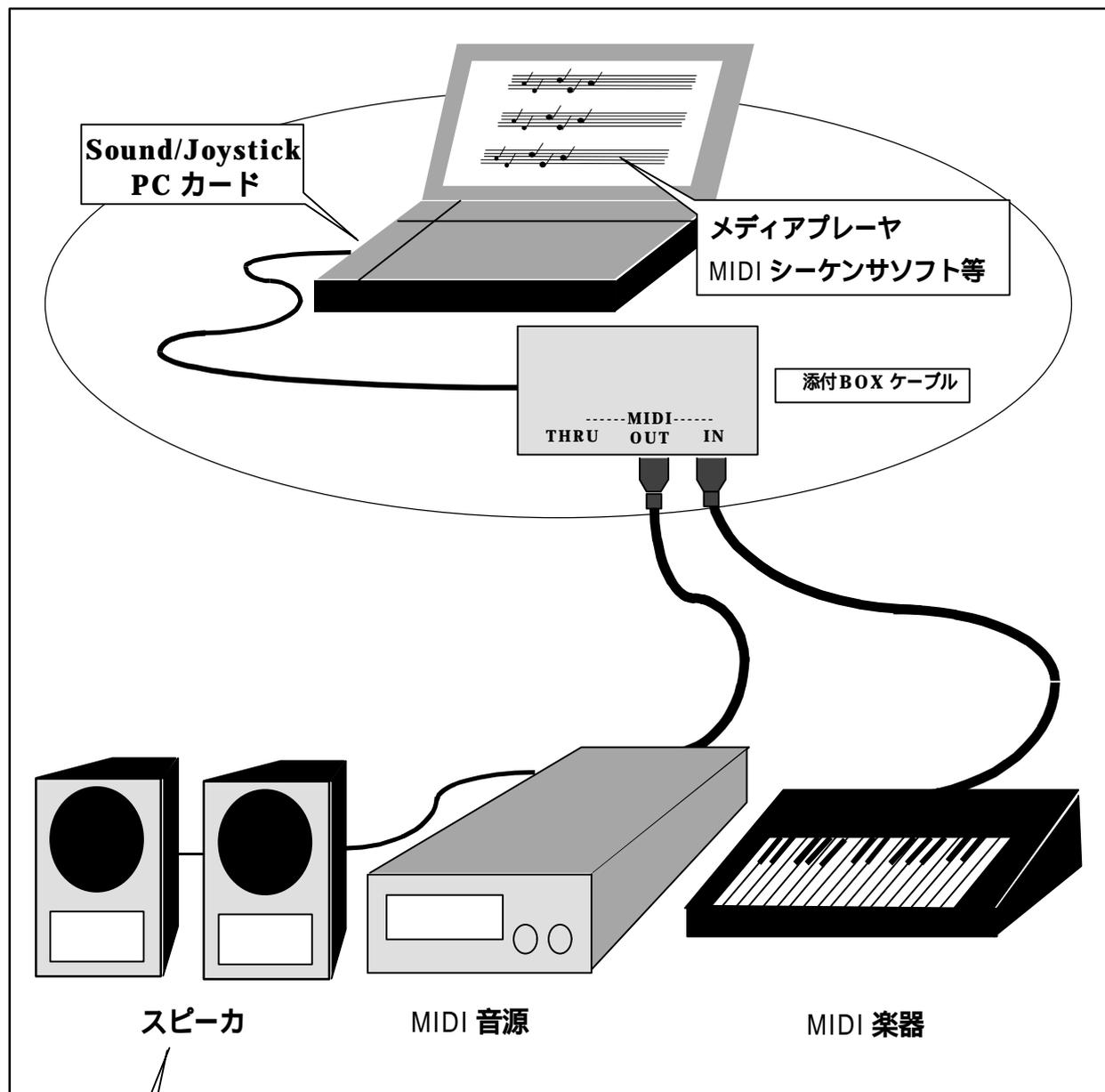


アダプタの各端子の働きは以下のようになっています。

LINE IN	LINE 入力
MIC	マイク端子
SPEAKER	スピーカー端子。スピーカーやヘッドフォンを接続します。 PCM 音源として使用する場合及び FM シンセサイザで MIDI ファイルを再生する場合はここから音が出力されます。
JOYSTICK	IBM-PC 互換ジョイスティックを接続します。
MIDI THRU	MIDI IN からの信号をそのまま出力します。
MIDI IN	他の MIDI 機器からの信号を受け取ります。
MIDI OUT	他の機器へ MIDI 信号を出力します。通常は外部 MIDI 音源へ接続します。

MIDI 音源、楽器の接続

BOX ケーブルの MIDI OUT 端子に MIDI ケーブルをつなぎ、MIDI 音源と接続します。
このとき、スピーカーは MIDI 音源の方へ接続してください。



PC カードスロットの電源供給の確認

PCカードスロットの電源供給のオン・オフ設定ができる機種では、電源が供給されるような設定になっていることを確認してください。

多くの機種では、この設定はセットアップやパワーセーブ機能の中の項目にあります。

PC カードスロットに電源が供給されていない状態では、PC カードが全く使用できませんのでご注意ください。

オートパワーダウン機能を解除

ノートパソコンでは、設定された時間内に何も操作がなかった場合に自動的にパソコン本体の電源を落とす機能（オートパワーダウン機能）を備えたものがあります。パソコンの機種によっては、この機能が働いた場合にPCカードスロットへの電源供給も止める場合があります。必ずオートパワーダウン機能が働かないようにパソコン本体を設定してください。

Sound/Joystick PC カードとBOX ケーブルの接続

本製品添付のBOXケーブルのコネクタを REX-5571/9871/4871 に差し込んでください。小さい方のコネクタの[▷ □ ◁]マークがある方をPCカードの[REX-5571/9871/4871]の表記がある方向に向けて挿入します。

BOXケーブルを取り外すときの注意

BOXケーブルを REX-5571/9871/4871 から取り外す場合は、コネクタ両側の突起を押さえながら取り外してください。

突起を押さえずに無理にコネクタを外すとREX-5571/9871/4871やBOXケーブルが破損するおそれがあります。この場合、保証対象外となりますので注意してください。

Sound/Joystick PC カードのスロットへの装着

最初にパソコン本体に添付のマニュアルに従って REX-5571/9871/4871 を PC カードスロットに装着してください。

通常の場合、PCカードの「REX-5571/9871/4871」と表記されている面を上にしてゆっくりと水平に挿入します。

FDD がPC カードスロット接続の場合

PC カードスロットが1スロットでしかもフロッピーディスクドライブがPCカード接続のパソコンでは、直接フロッピーディスクからのインストールはできません。

この場合、Sound/Joystick PC カードを PC カードスロットへ装着する前に、あらかじめ本製品添付のドライバディスク（フロッピーディスク）の内容をパソコン本体内蔵のハードディスクへコピーします。

その後、REX-5571/9871/4871 PC カードを装着してパソコン本体内蔵のハードディスクからドライバを読み込ませてください。

3. Windows 95 での使用方法

この章では、Windows 95 へのインストール方法を示します。

次のインストール手順にて実行してください。

1. 機能の決定
Sound、MIDI、Joystick、(SideWinder)の機能の内どれを使用するかを決定します。



2. 資源の確認
I/O ポートアドレス等の空き状況の確認を行います。



3. Windows 95 へのインストール
PC カードを装着しないで、CHANGE.EXE を起動します。
機能選択入力後、PC カードを装着し、ドライバをインストールします。



4. インストールの確認
デバイスマネージャの一覧より確認します。

機能の決定

Sound/Joystick PC カードのどの機能を使用するのかを決めます。

選択事項 1

以下の表と 2 つの選択項目のようにパターン 1 とパターン 2 を選択できます。その他の組み合わせは選択できません。

パターン 1	パターン 2	機能	用途
○	×	SOUND	ウェーブファイルの再生・録音 内蔵 FM シンセサイザを使った MIDI ファイルの再生
○	×	MIDI	外付け MIDI 機器の接続
○	○	Joystick	ジョイスティックやゲームパッドに よるゲームソフトの操作

パターン 1 サウンド + ジョイスティック + MIDI

パターン 2 ジョイスティックのみ

どちらかを必ず選択します。

選択事項 2

次に、SideWinder を使うかどうかの選択を決定します。

パターン 1 SideWinder を使用する。

パターン 2 SideWinder を使用しない。

SideWinder とは、3D Pro と GAMEPAD を示します。

選択事項 3

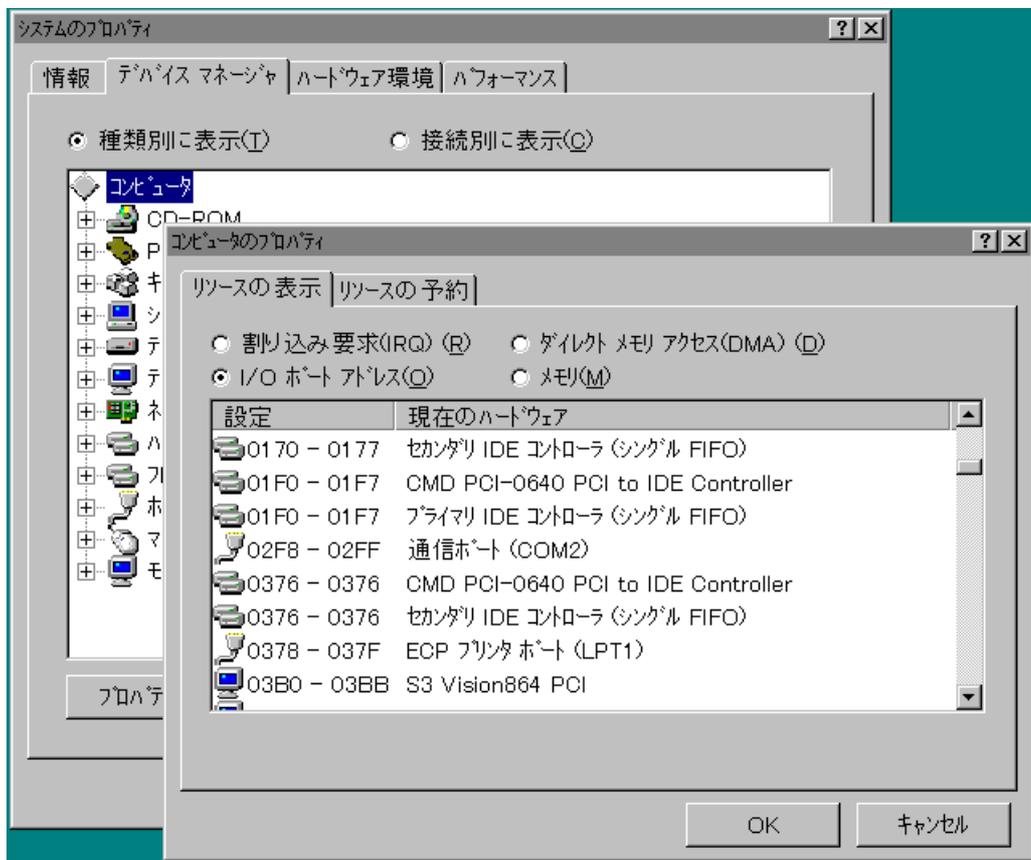
さらに、ジョイスティックは I/O ポートアドレス 201h を使うか、201h 以外を使うかの選択を決定します。PC/AT 互換機では、ジョイスティックが使用する I/O アドレスを通常 201h に割り当てられているようですが、このアドレスが他のデバイスと競合する場合は、ジョイスティックが使用する I/O アドレスを他に変更する必要があります。PC-98 では、ジョイスティックが使用する I/O アドレスは、201h のみです。ただし、Microsoft SideWinder GAMEPAD を使う場合のみ、C201h となります。

パターン 1 201h を使う。

パターン 2 201h 以外を使う。

240h,260h,280h,2A0h,2C0h,300h,340h,360h,3A0h,3C0h を選択できます。

I/O ポートアドレス 201h が空いているかの確認方法は、[コントロールパネル] [システム] [デバイスマネージャ] コンピュータをダブルクリックします。
I/O ポートを選択し、201h が使用されていないことを確認します。



パソコンの機種によっては、最初からデバイスマネージャに [サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ] => [ゲームポートジョイスティック] の項目が登録されている場合があります。この場合、[ゲームポートジョイスティック] のプロパティの [情報] で [Original Configuration(使用中)] [Unlocked(使用中)] の先頭の のチェックをはずすと 201h が使用されていない状態になります。(OSR2 の場合、すべてのハードウェア環境で使用するのチェックをはずします)

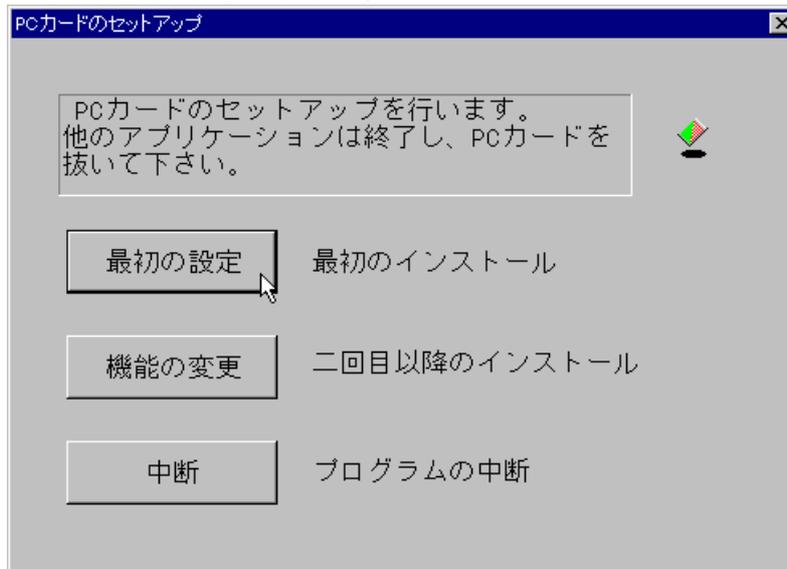
これらを決定および参照後、ドライバディスクの CHANGE ディレクトリの CHANGE.EXE を実行します。

Windows 95 へのインストール

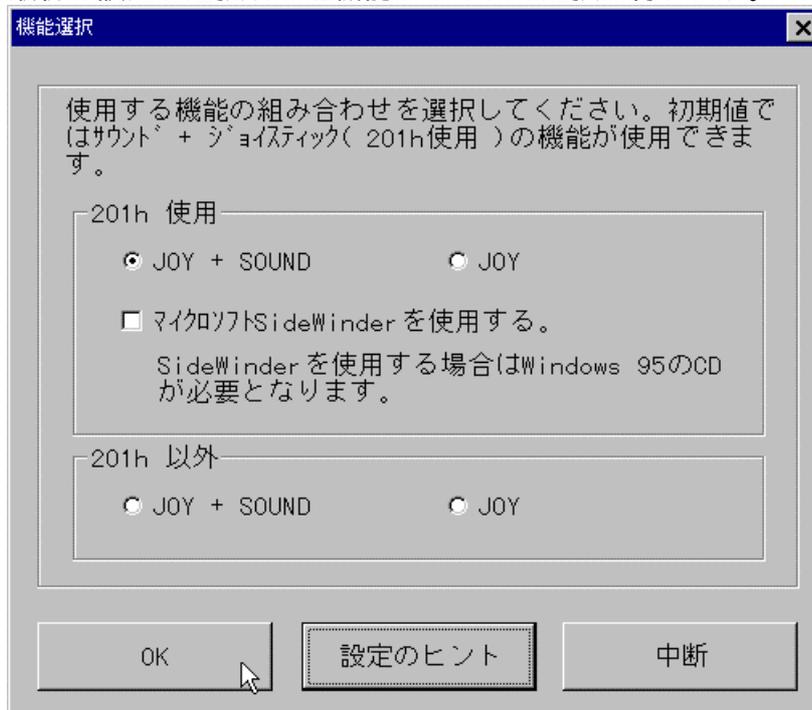
1. REX-5571/9871/4871 PC カードを装着しないで、Windows 95 を起動します。
2. ドライブディスクの CHANGE ディレクトリの CHANGE.EXE を起動します。



3. 以下の画面が表示されます。

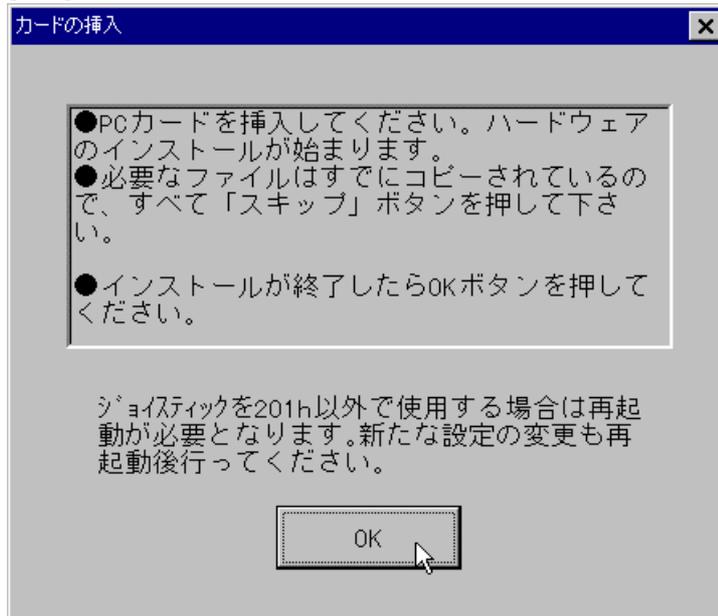


4. 最初の設定を選択すると機能パターンの選択を行います。



PC-98 では、201h 以外のみ使用できます。

5. このあと、続けてドライバのインストールを行います。 REX-5571/9871/4871 PC カードを装着してください。本画面は右下に表示されます。7.項まで実行完了後、[OK]を押してください。



6. 以降、「新しいハードウェアの検出画面が表示される場合」と「デバイスドライバウィザードの画面が表示される場合」に別れます。どちらの画面も表示されず、自動的にインストールが進行する場合があります。この場合、その説明に従ってください。

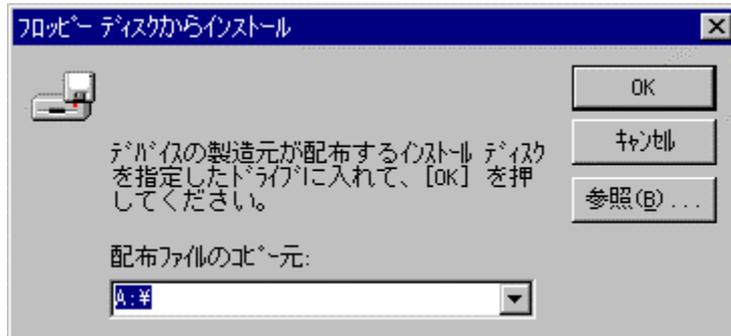
<< 新しいハードウェアの検出画面が表示される場合 >>

- (1) Sound/Joystick PC カードを挿入すると新しいハードウェアの検出が始まり、『新しいハードウェアにインストールするドライバ』を選択してください』というダイアログボックスが表示されます。ここで『ハードウェアの製造元が提供するドライバ』を選択して[OK]ボタンを押します。



第3章 Windows 95 での使用方法

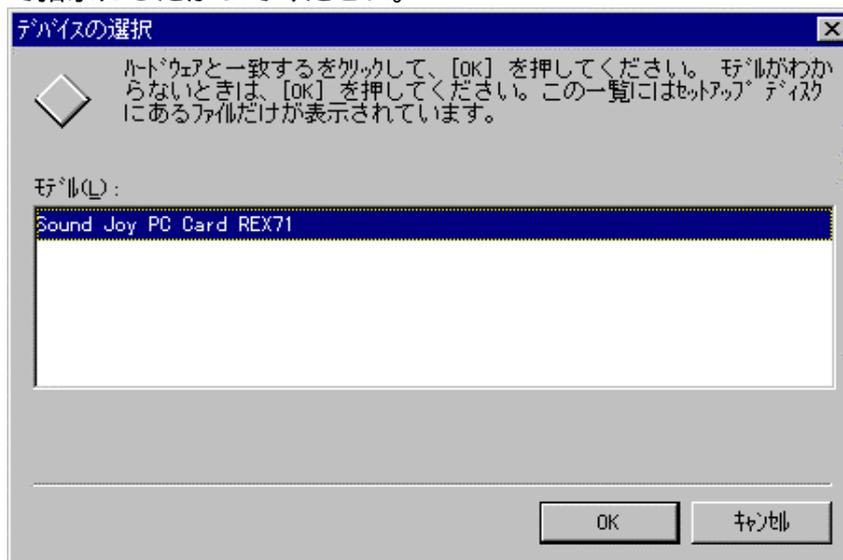
- (2) 添付のドライバディスクをセットし、『配布ファイルの北°-元』としてフロッピーディスクのドライブ名を入力して[OK]ボタンを押します。SideWinder GAMEPAD をご使用の場合は、ディレクトリ名に「GAMEPAD」を指定します。



フロッピーディスクドライブが A:ドライブの場合を例としています。

- (3) [Sound Joy PC Card REX71]を選択して[次へ>]ボタンをクリックするとドライブがコピーされます。SideWinder を使用する場合、[Sound Joy PC Card REX71 for SIDE WINDER]と表示されます。

途中で Windows 95 のフロッピーまたは CD-ROM を要求される場合がありますので指示にしたがってください。



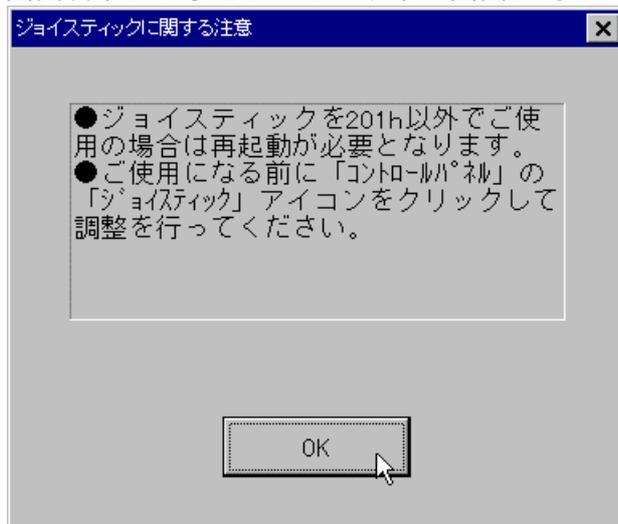
Windows 95 がプレインストールのパソコンの場合には、コピー元のディレクトリとして [windows¥options¥cabs] を指定します。

- (4) ドライバがコピーされます。「ピポッ」という音がして Sound/Joystick PC カードが使用可能となります。

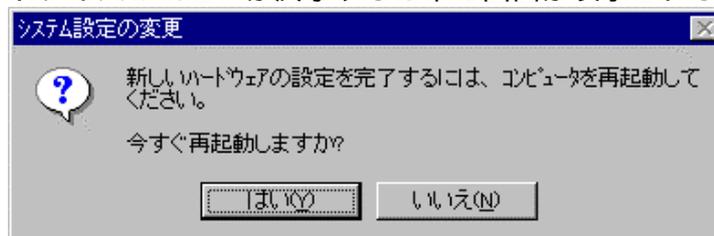
<< デバイスドライバウィザードの画面が表示される場合>>

- (1) 添付のドライバディスクをセットし、[次へ]ボタンを押します。
- (2) 「このデバイス用の更新されたドライバが見つかりました。」という画面が表示されたら、[完了]ボタンを押します。 SideWinder GAMEPAD をご使用の場合は、「場所の指定(O)....」を指定します。ドライバがあるフォルダ名の GAMEPAD を指定します。再度、「このデバイス用の更新されたドライバが見つかりました。」という画面が表示されたら、[完了]ボタンを押します。
- (3) 確認のためディスク挿入の画面が表示されるので、[OK]ボタンを押します。
- (4) ファイルのコピーの画面が表示されるので、フロッピーディスクを挿入しているドライブ名を入力して、[OK]ボタンを押します。 SideWinder GAMEPAD をご使用の場合は、ドライブ名とフォルダ名 (GAMEPAD) を入力して、[OK]ボタンを押します。
- (5) ドライバがコピーされます。「ピポッ」という音がして Sound/Joystick PC カードが使用可能となります。

7. 画面右下に表示されてある以下の画面に対して、「OK」を押してください。



8. ドライバのコピーが終了すると下の画面が表示される場合があります。



フロッピーディスクを抜いてから [はい(Y)] をクリックしてシステムを再起動します。

第3章 Windows 95 での使用方法

9. インストール完了後、Sound/Joystick PC カードの使用する機能別の設定を行います。

ジョイスティックを使用する場合

「コントロールパネル」の「ジョイスティック」を開いてジョイスティックの調整を行います。

MIDI 機器を接続する場合

[コントロールパネル]→[マルチメディア]→[MIDI]を選択して「MIDI 出力」ドライバを「ESS MPU-401」に変更します。

SideWinder GAMEPAD を使用する場合

SideWinder GAMEPAD に添付の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットすると SideWinder GAMEPAD のインストールプログラムが起動されます。

画面の指示に従ってインストールしてください。

「コントロールパネル」の「ジョイスティック」を開いてジョイスティックの調整を行います。

ドライバの確認

ドライバが正しくインストールされているかの確認は以下の手順で行います。

「ジョイスティック+サウンド+MIDI」(パターン1)の確認

1. Windows 95 上から [コントロールパネル] の [システム] を開き、[デバイスマネージャ] を選択します。
2. デバイスマネージャの「マルチファンクション アダプタ」、[サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ] それぞれの項目の左のプラス記号(+)をクリックして、[Sound Joy PC Card REX 71]、[Sound Joy PC Card REX 71 for SIDE WINDER]、[Joy Card REX71]、[REX Sound PC Card]が表示されていることを確認します。



登録されていない場合は、ドライバの登録をやり直してください。

3. 各項目の先頭のアイコンに「!」「X」「?」表示があるか確認します。

- ・ [ゲームポッドジョイスティック] に「!」表示ある場合、I/O ポート「201h」が他のデバイスと競合しています。この場合は、後述「ジョイスティックポート(201)が競合している場合」の説明にしたがってドライバをインストールしてください。
- ・ [Sound Joy PC Card REX 71]、[Sound Joy PC Card REX 71 for SIDE WINDER]、[REX Sound PC Card] に「!」表示がある場合は、リソースが競合しています。この場合は、後述の「リソースの変更」にしたがってリソースを変更します。

4. [Sound Joy PC Card REX 71] [Sound Joy PC Card REX 71 for SIDE WINDER] [REX Sound PC Card] [Joy Card REX71]のプロパティウィンドウを表示してドライバが登録されているか確認します。

- ・ [ドライバ] タグをクリックして [ドライバファイル(D)] のリストに対応したドライバが表示されていることを確認します。

Sound Joy PC Card REX 71	MSOUND.INF, MJOY.INF
Sound Joy PC Card REX 71 for SIDE WINDER	msjstick.drv, vjoyd.vxd
REX Sound PC Card	rexmpu.drv, rexfm.drv, es1688p.drv, es1688p.vxd
Joy Card REX71	vjoyd.vxd, msjstick.drv, rexjoy.vxd

- ・ 確認したら、[OK] ボタンを押してデバイスマネージャのウィンドウに戻ります。

[ドライバ] タグが表示されていない場合は、ドライバの登録を再度実行してください。

「ジョイスティックのみ」(パターン2)の確認

1. Windows 95 上から [コントロールパネル] の [システム] を開き、[デバイスマネージャ] を選択します。
2. デバイスマネージャの [サウンド、ビデオ、およびゲームのコントロー] 項目の左のプラス記号 (+) をクリックして、[REX Joystick PC Card] が表示されていることを確認します。
 - ・ 登録されていない場合は、ドライバの登録をやり直してください。
3. [REX Joystick PC Card] の先頭のアイコンに「!」「X」「?」表示があるか確認します。
 - ・ 「!」表示ある場合、I/O ポート「201h」が他のデバイスと競合しています。この場合は、後述「ジョイスティックポート(201)が競合している場合」の説明にしたがってドライバをインストールしてします。
4. [REX Joystick PC Card] プロパティウィンドウのドライバに以下のドライバが登録されているか確認します。

ゲームポッドジョイスティック

msjstick.drv, vjoyd.vxd, rexjoy.vxd

- ・ 登録されていない場合は、ドライバの登録を再度実行してください。

リソースの変更

1. デバイスマネージャの「マルチファンクションアダプタ」の左のプラス記号(+)をクリックして、[Sound Joy PC Card REX 71]を選択してプロパティウィンドウを開き、[リソース]タグをクリックします。
2. [自動設定(U)]のチェックを外します。
3. [基本設定の登録名]を変更して競合しない値を選択します。
4. [OK] ボタンを押すと「ピポッ」という音がしてカードが使用可能になります。



ドライバの削除

一度登録したドライバを削除する場合は以下の手順で行います。

1. Windows 95 上から [コントロールパネル] の [システム] を開き、[デバイスマネージャ] を選択します。
2. デバイスツリー表示から項目を削除します。
下表の各設定に対応した項目を選択して [削除] ボタンをクリックします。

設定	削除する項目(下線の項目のみ)
設定 1	... マルチファンクションアダプタ ... <u>Sound Joy PC Card REX71</u>
設定 2	... ゲームポートジョイスティック ... <u>REX Joystick PC Card</u>

ドライバの変更

設定を変更する場合、カードのデバイスマネージャへの登録名を削除して新しいデバイスとして登録させます。

1. 先に説明した「ドライバの削除」にしたがって各設定に対応したドライバを削除します。
2. デバイスツリー表示の画面に戻ったら、[更新] ボタンを押します。
3. 『新しいハードウェアの検出』が始まります。
ドライバの入ったフロッピーを使って新たに選択する設定でインストールします。
4. インストールが完了すれば、新しいドライバへの変更されます。

Windows 95 の再起動を指示するメッセージが表示された場合は、指示にしたがってください。

内蔵サウンド機能を無効にする

ここでは、パソコン本体内蔵のサウンド機能と Sound/Joystick PC カードの機能が競合して、うまく動作しない場合の回避方法について説明します。

1. まず、パソコン本体の BIOS 設定で内蔵サウンドを切り離せる場合、その設定を行います。詳しくは、パソコン本体添付のマニュアルをご覧ください。
2. 次に、Windows 95 上から [コントロールパネル] の [マルチメディア] を開き、[詳細設定] タグをクリックします。
3. [オーディオデバイス] の左のプラス記号 (+) をクリックしてデバイス項目を表示させます。



- ・ [ESS ES1688 Audio Drive for PCMCIA のオーディオ] 以外の項目が表示されている場合、それを選択して [プロパティ] ボタンをクリックします。

4. [このデバイス上でオーディオ機能を使わない] を選択して [OK] ボタンをクリックします。

Windows の再起動を指示する画面が表示されたら、[OK] ボタンをクリックし、[マルチメディアのプロパティ] を終了して Windows を再起動します。



更新選択でインストールが始まる時

[更新]ボタンを押すと同じ設定のままインストールが始まってしまう場合には以下の手順で更新を行ってください。

1. 先に説明した「ドライバの削除」にしたがってドライバを削除します。
2. Sound/Joystick PC カードを抜き、Windows 95 を再起動します。
3. 再起動後 Sound/Joystick PC カードを挿し込みます。
『新しいハードウェアの検出』が始まったら、Sound/Joystick PC カードドライバの入ったフロッピーを使ってインストールを行ってください。

また、誤ってドライバを削除した場合や、ドライバの入れ替えが必要な場合も同様の手順で行います。

4. Windows NT 4.0 での使用方法

この章では、Windows NT4.0 へのインストール方法を説明します。インストールに際して以下の制限があります。

- 対応している Windows NT の種類はインテルプラットフォームのみで、Windows NT 3.51、3.5、3.1 では動作いたしません。
- Windows NT は Plug and Play に対応しておりませんので、システム起動時、REX-5571/9871/4871 が装着されている必要があります。
- 同時に装着して使用可能な Sound/Joystick PC カードは、1 枚のみです。2 枚以上装着しても最初の 1 枚しかご使用いただけません。

Windows NT 4.0 へのインストールのまえに

添付のドライバディスクを使用して、インストールを行います。

添付のドライバディスクのドライバは、使用するシステムリソースが固定されています。すでに、パソコン側で使用済みの場合は、そのリソースを移動する必要があります。

1. システムリソースが空いているかのチェックを行います。

[スタート] [プログラム] [管理ツール] [Windows NT 診断プログラム]を起動します。[リソース]のタグを選択し、[I/O ポート]を選択します。



第4章 Windows NT4.0 での使用方法

2. 以下の資源 (I/O ポート) が使用できることを確認してください。

使用するデバイス	I/O ポートアドレス
Joystick	201h 固定
Sound	次のうちからいずれか1つ選択 320h-331h / 240h-24Fh / 260h-26Fh / 280h-28Fh / 2A0h-2AFh / 2C0h-2CFh / 300h-30Fh / 340h-34Fh / 360h-36Fh / 3A0h-3AFh / 3C0h-3CFh
MIDI	Joystick が 201h を、Sound が 320h-331h を使用すると 使用できます。

もし使用済みの場合、使用しているデバイスの資源を変更してください。

インストールの手順

インストールは以下のステップにしたがって進行します。

1. Sound/Joystick PC カードの登録

Windows NT 4.0 では、Sound/Joystick PC カードというカテゴリがないため、[SCSI アダプタ]として登録します。

2. リソースの確認

Sound/Joystick PC カードの登録が正常に行われているかを、割り当てられたリソースの確認を行います。

3. サウンドドライバのインストール

マルチメディアデバイスとして Sound/Joystick PC カード用のサウンドドライバを登録します。

4. ジョイスティックドライバのインストール

マルチメディアデバイスとし Windows NT 4.0 の CD-ROM に含まれるジョイスティックドライバを登録します。

Sound/Joystick PC カードの登録

Windows NT 4.0 では、Sound/Joystick PC カードというカテゴリがないため、[SCSI アダプタ]として登録します。

1. Windows NT4.0 を起動してアドミニストレータのユーザ権限でログオンします。
Sound/Joystick PC カードを抜いた状態でパソコンを起動します。
2. [コントロールパネル]から[SCSI]アイコンを起動します。



SCSI アダプタ

3. [SCSI アダプタ]画面が表示されたら[ドライバ]タブをクリックします。
ドライバの画面が表示されたら [追加(A)...] ボタンを押します。

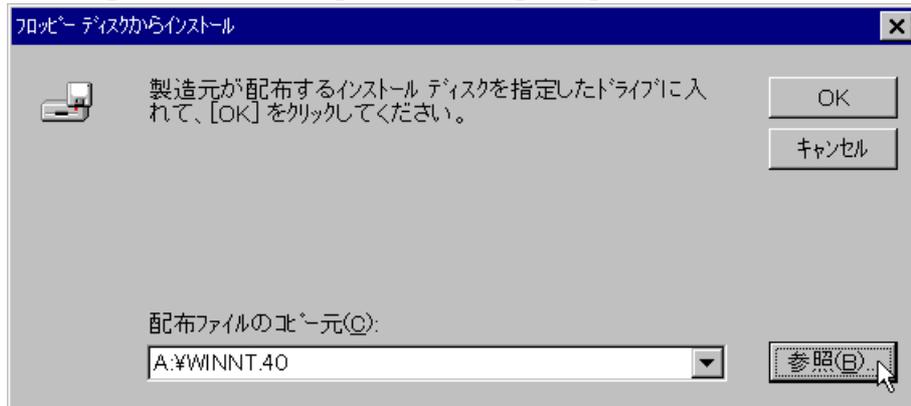


4. 「ドライバのインストール」画面が表示されたら、[ディスク使用(H)...] ボタンをクリックします。

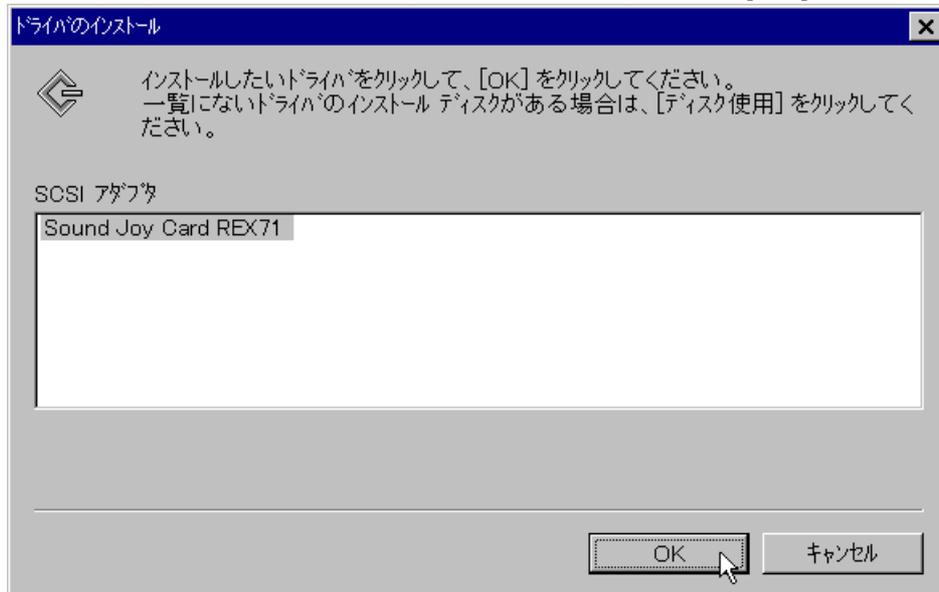


第4章 Windows NT4.0 での使用方法

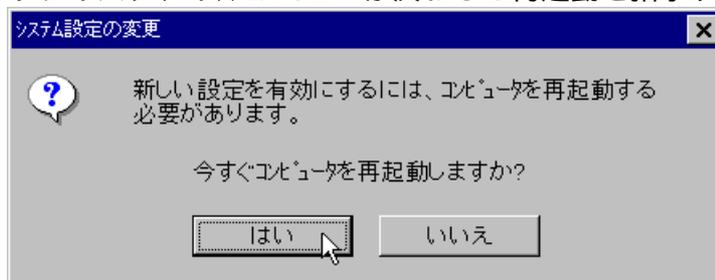
5. 「フロッピーディスクからのインストール」画面が表示されたら、ドライバディスクをフロッピードライブにセットします。そして、[配布ファイルのコピー元(C):] の欄に [A:¥WINNT.40] と入力して [OK] ボタンをクリックします。



6. フロッピーディスクにアクセスしたのち「ドライバのインストール」画面が表示されたら使用する PC カードに対応した項目を選択して、[OK] ボタンを押します。



7. ドライバファイルのコピーが終わると再起動を指示する画面が表示されます。



[はい] ボタンをクリックする前に以下のことを行います。

- 1) フロッピードライブからドライバディスクを抜きます。
- 2) Sound/Joystick PC カードを PC カードスロットに挿入します。
- 3) 最後に [はい] をクリックして Windows NT4.0 を再起動します。

リソースの確認

Sound/Joystick PC カードが正常に登録されているか確認するため、PC カードに割り当てられたリソースを確認します。

1. [コントロールパネル]から[PC カード(PAMCIA)]アイコンを起動します。



2. ソケットの状態に [? RATOC System Inc SOUND CARD71 - ソケット x] が表示されていることを確認し、それを選択します。先頭の「 ? 」マークは、エラーではありません。単にドライバが登録されていないことを表しています。



3. 次に[プロパティ(R)]ボタンを押します。そして、[リソース]タブをクリックしてリソースを確認します。



ここで何も表示されない場合、リソースが競合している可能性があります。

この状態では、リソースが確保されているが、ドライバを組み込んでいない状態です。続いてサウンドドライバ、およびジョイスティックドライバを組み込みます。

サウンドドライバのインストール

マルチメディアデバイスとして Sound/Joystick PCカード用のサウンドドライバを登録します。Joystickのみ使用する場合、この作業は必要ありません。

1. [コントロールパネル]から[マルチメディア]アイコンを起動します。



マルチメディア

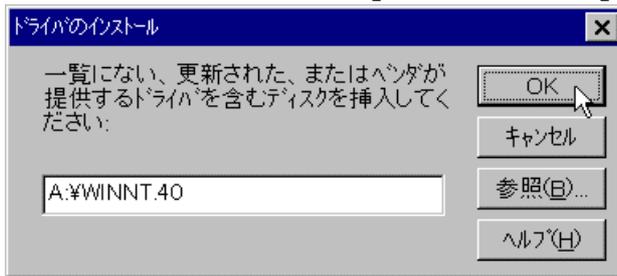
2. [デバイス]タブをクリックします。そして[追加]ボタンを押します。



3. ドライバ一覧の先頭行にある [一覧にない、または更新されたドライバ] を選択し、[OK]ボタンを押します。



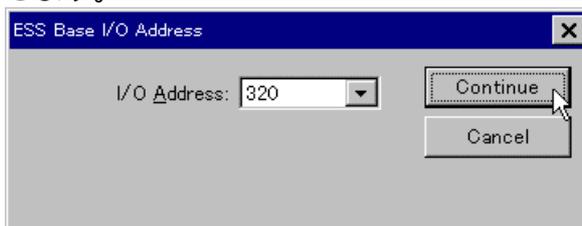
4. ドライバを含むディスクの挿入画面が表示されたら、ドライバディスクをフロッピードライブにセットして、[A:¥WINNT.40] と入力し [OK] ボタンを押します。



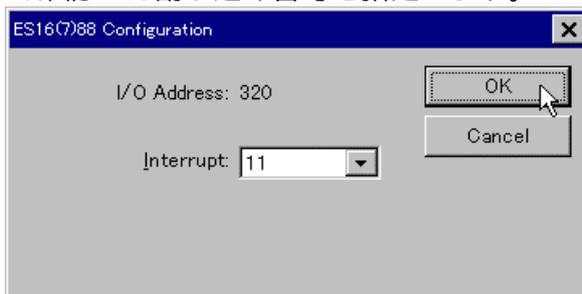
5. ディスクにアクセス後、一覧に [ES1688 AudioDrive RATOC 1.1]が表示されますので、それを選択して[OK]ボタンを押します。



6. I/O ポートアドレスを確認する画面が表示されます。確認して[Continue]ボタンを押します。



7. 割り込み番号を選択する画面が表示されます。ここでは、必ず「リソースの確認」で確認した割り込み番号を指定します。そして、[OK]ボタンを押します。



8. ドライバファイルのコピーが終わると再起動を指示する画面が表示されます。



フロッピードライブからドライバディスクを抜きます。そして [再起動する] ボタンを押して Windows NT を再起動します。

ジョイスティックドライバのインストール

マルチメディアデバイスとして Windows NT4.0 の CD-ROM に含まれるジョイスティックドライバを登録します。またこのドライバにて Microsoft SideWinder 3D Pro も使用できます。

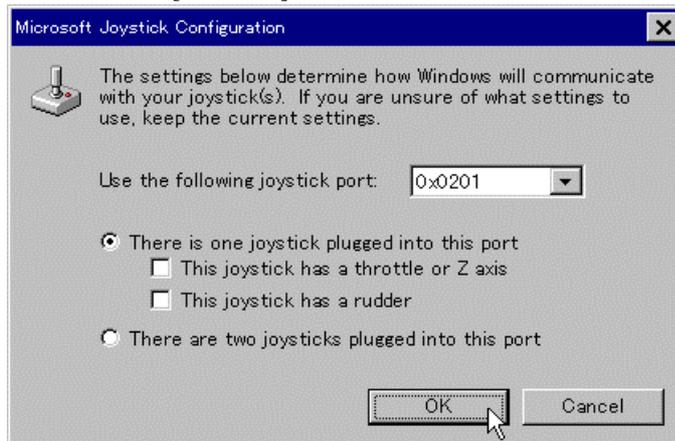
1. [コントロールパネル]から[マルチメディア]アイコンを起動します。
2. [デバイス]タブをクリックします。そして[追加]ボタンを押します。
3. ドライバ一覧の先頭行にある [一覧にない、または更新されたドライバ] を選択入力します。
ここまでは、前項のサウンドドライバのインストールと同様です。
4. ドライバの挿入画面が表示されたら、「e:\drvlib\multimed\joystick\x86」を入力します。（Windows NT の CD-ROM のドライブ名が「e:」の場合の例です）



5. ディスクにアクセス後、一覧に [Analog Joystick Driver]が表示されますので、それを選択して[OK]ボタンを押します。

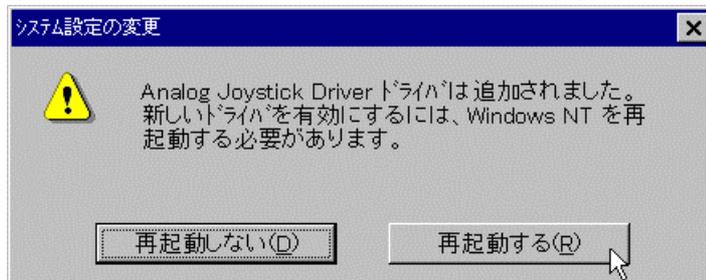


6. [Microsoft Joystick Configuration]ウィンドウが表示されるので確認して [OK]を押します。 [0x0200]を選択しても動作しません。



Joystick のタイプを選択します。

7. ドライバファイルのコピーが終わると再起動を指示する画面が表示されます。



8. [再起動する] ボタンをクリックして Windows NT4.0 を再起動します。
9. ジョイスティックのテストおよび調整を行います。

[コントロールパネル]の[ジョイスティック]を起動します。



ジョイスティック



ドライバの削除

一度登録したドライバを削除する場合は以下の2つの削除の手順で行います。

サウンドドライバの削除

マルチメディアデバイスから Sound/Joystick PC カード用のサウンドドライバを削除します。

1. [コントロールパネル]から[マルチメディア]アイコンを起動します。
2. [デバイス]タグをクリックします。
3. [オーディオデバイス]をクリックします。
4. [ES1688 AudioDrive RATO C 1.1 のオーディオ]を選択して[削除]ボタンを押します。
5. Windows NT4.0 再起動の確認画面が表示されますが、ここでは[再起動しない]を選択します。

Sound/Joystick PC カードの登録の削除

1. [コントロールパネル]から[SCSI アダプタ]アイコンを起動します。
2. [SCSI アダプタ]画面が表示されたら[ドライバ]タグをクリックします。
3. ドライバの画面が表示されたらインストールされている SCSI アダプタドライバから [SOUND Joy Card REX71] を選択して [削除(R)...] ボタンを押します。
4. 以上でドライバは削除されます。

5. DOS/Windows 3.1 での使用方法

この章では、DOS/Windows 3.1 へのインストール方法を説明します。インストールに際して以下の制限があります。

- 同時に装着して使用可能な Sound/Joystick PC カードは、1枚のみです。2枚以上装着しても最初の1枚しかご使用いただけません。

DOS/Windows 3.1 へのインストールのまえに

添付のドライバディスクを使用して、インストールを行います。
添付のドライバディスクのドライバは、使用するシステムリソースが固定されています。
すでに、パソコン側で使用済みの場合は、そのリソースを移動する必要があります。

以下の資源 (I/O ポート) が使用できることを確認してください。

使用するデバイス	I/O ポートアドレス
Joystick	201h 固定
Sound	次のうちからいずれか1つ選択 320h-331h / 240h-24Fh / 260h-26Fh / 280h-28Fh / 2A0h-2AFh / 2C0h-2CFh / 300h-30Fh / 340h-34Fh / 360h-36Fh / 3A0h-3AFh / 3C0h-3CFh
MIDI	Joystick が 201h を、Sound が 320h-331h を使用すると 使用できます。

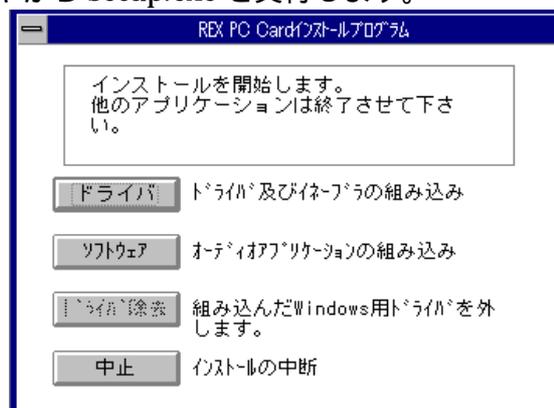
もし使用済みの場合、使用しているデバイスの資源を変更してください。

Windows3.1 でのセットアップ

1. Windows3.1 を起動します。
2. Sound/Joystick PC カードに添付のドライバディスク for DOS/Windows3.1 用ディスクをセットし、プログラムマネージャから setup.exe を実行します。

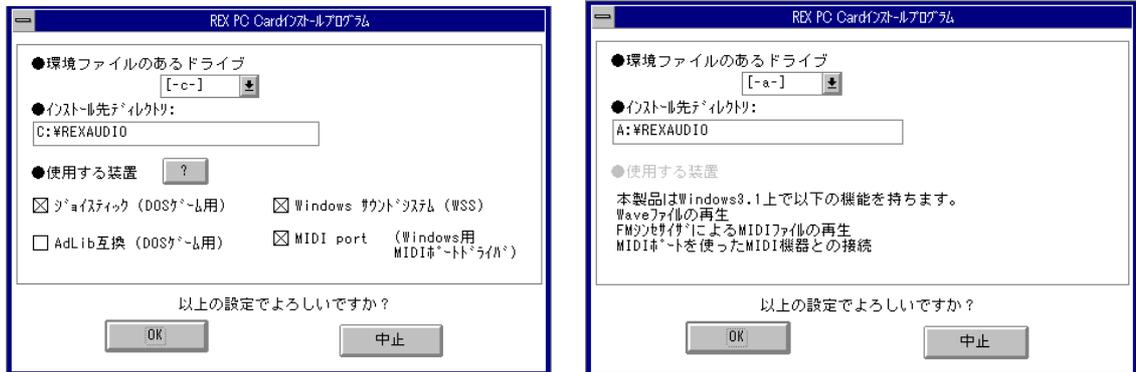
初めてカードを使用する場合は[ドライバ]を選択して下さい。CONFIG.SYS にサウンドカードのイネーブラが組み込まれ、Windows にドライバが組み込まれます

[ソフトウェア]を選択すると「オーディオラック」が組み込まれます。



第5章 DOS/Windows 3.1 での使用方法

3. [ドライバ]を選択すると環境を設定するダイアログボックスが表示されます。環境ファイル(CONFIG.SYS)のあるドライブとドライバのインストール先ディレクトリを入力します。

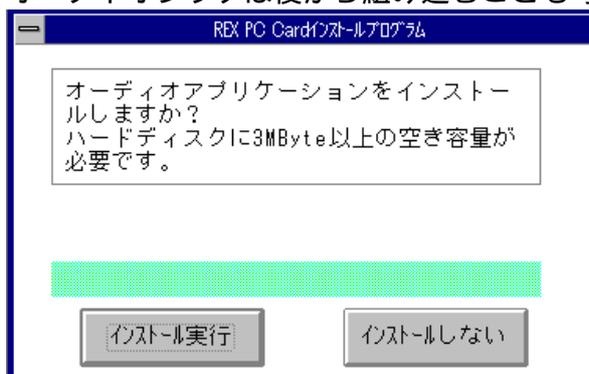


4. 次にサウンドカードの I/O ポート、割り込みを設定します。他のデバイスと競合しないように設定してください。



REX-5571 の場合のみ初期設定ではジョイスティックも使用するようになっているため、選択した I/O ポート以外に 201h も使用します。

5. 次にサウンドアプリケーションである[オーディオラック]の組み込みを行います。ドライバだけを組み込む場合は[インストールしない]を選択してください。オーディオラックは後から組み込むことも可能です。



6. インストールが終了すると「プログラム マネージャ」に[REX オーディオ]グループが作成されます。



インストール終了後は必ず Windows を終了して再起動してください。

DOS 用ドライバ(イネープラ)

添付のドライバ REX5571.SYS, REX71DBK.SYS, REX71365.SYS, REX9871.SYS, REX4871.SYS は、Sound/Joystick PCカードのイネープラとして機能します。

ドライバは以下の種類があります。

PCカード	ドライバ名	対応PCMCIAドライバ	対応機種
REX-5571	REX5571.SYS	カードサービス	DOS/V ノートパソコン
	REX71DBK.SYS	DATABOOK製CardTalk	
	REX71365.SYS	PCMCIAコントローラ直接制御	
REX-9871	REX9871.SYS	NEC PC98標準添付のカードサービス	NEC PC-9821シリーズ
REX-4871	REX4871.SYS	EPSON 98互換機標準添付のカードサービス	EPSON PC-486/586シリーズ

書式

<pre>DEVICE=<ディレクトリパス>%REX5571.SYS [/PORT=<I/Oアドレス>] [/SOCKET=<スロット番号>] [/INT=<割り込み番号>] [/BOFF] [/ADLIB] [/JOY] [ADJOY] [/Index22]</pre>
<pre>DEVICE=<ディレクトリパス>%REX71DBK.SYS [/PORT=<I/Oアドレス>] [/SOCKET=<スロット番号>] [/MEM=<開始セグメント>] [/ADLIB] [/JOY] [ADJOY] [/Index22]</pre>
<pre>DEVICE=<ディレクトリパス>%REX71365.SYS [/PORT=<I/Oアドレス>] [/SOCKET=<スロット番号>] [/MEM=<開始セグメント>] [/ADLIB] [/JOY] [ADJOY] [/Index22]</pre>
<pre>DEVICE=<ディレクトリパス>%REX9871.SYS [/PORT=<I/Oアドレス>] [/SOCKET=<スロット番号>] [/INT=<割り込み番号>] [/BOFF] [/Index22]</pre>
<pre>DEVICE=<ディレクトリパス>%REX4871.SYS [/PORT=<I/Oアドレス>] [/SOCKET=<スロット番号>] [/INT=<割り込み番号>] [/BOFF] [/Index22]</pre>

本製品添付の Windows3.1 用インストーラ「SETUP.EXE」を実行すると、CONFIG.SYS にこれらのドライバが登録されます。

例えば REX-5571 の場合、次のような記述を追加します。

<pre>[COMMON] REM ----REX-5571---- DEVICE=C:%REXAUDIO%REX5571.SYS /PORT=220 /INT=9 /Index22 /Joy</pre>
--

全ドライバ共通のオプション

/PORT=<I/O アドレス>

Sound/Joystick PC カードが使用する I/O ポートのベースアドレスを 16 進数で指定します。

PC カード	ドライバ	設定可能 I/O アドレス値	省略時
REX-5571	REX5571.SYS, REX71365.SYS	220, 240, 260, 280, 300	240
	REX71DBK.SYS	220, 260, 280, 300	300
REX-9871	REX9871.SYS	0D0, 2D0, 4D0, 6D0	0D0
REX-4871	REX4871.SYS	220, 240, 260, 280, 300	240

本カードは「/PORT」で指定した値から 16 バイトの空間を占有します。

REX-5571 の場合、「/ADLIB」「/JOY」「/ADJOY」のオプションを追加すると上記以外に Joystick が 201h, Adlib が 388h~38Bh を占有します。

・東芝DynaBook V486Aでは「300」が使用できません

/INT=<IRQ 番号>

Sound/Joystick PC カードが使用する IRQ 番号を 1 桁 16 進数で指定します。

PC カード	ドライバ	設定可能 IRQ 値	省略時
REX-5571	REX5571.SYS, REX71365.SYS	3, 5, 7, 9, 10, 11, 12, 15	9
	REX71DBK.SYS		
	REX-9871		
REX-4871	REX4871.SYS	3, 5, 7, 9, 10, 11, 12, 15	9

/SOCKET=<スロット番号>

PC カード スロットが 2 つ以上の場合に、Sound/Joystick PC カードを挿入する PC カード スロットを「0~2」の数字で指定します。

スロット 番号	意 味
0	自動スキャン。 スロット 1、2 を順番に検索して見つける
1	下側のスロット
2	上側のスロット

一部のパソコンでは、スロットの番号の下側 / 上側の意味が逆になる場合があります。

/Index22

MIDI を使用する場合の指定です。

この指定をした場合は、「/AdLib」「/Adjoy」指定はできません。

REX5571.SYS, REX71DBK.SYS, REX71365.SYS 共通オプション

/ADLIB

ゲーム用サウンドボード AdLib のポート(388h ~ 38Bh)をオープンします。

/JOY

ジョイスティックポート(201h)をオープンします。

/ADJOY

ジョイスティック用ポート(201h)とサウンド用ポートを連続してオープンし、更に AdLib 用のポート(388h ~ 38Bh) をオープンします。

REX5571.SYS, REX9871.SYS, REX4871.SYS 共通オプション

/BOFF

カード認識時やカード挿抜検出時に Sound/Joystick PC カード用ドライバ独自でビープ音を鳴らす機能がありますが、これを抑制します。記述を省略した場合にはビープ音が鳴ります。

カードサービス自身が鳴らすビープ音は、このオプションで抑制することはできません。

REX71DBK.SYS, REX71365.SYS 固有のオプション

/MEM

カード属性情報読みだしに使用するメモリ・ウィンドウの開始セグメント・アドレスを指定します。ここで指定した値が EMS のページフレームや UMB 領域と重ならないように「EMM386.EXE」の「X」オプションで除外しておく必要があります。(記述例)

```
DEVICE=C:\DOS\EMM386.EXE 512 FRAME=D000 X=C800-CFFF
```

さらに、Windows3.1 上で使用する場合は SYSTEM.INI の[386Enh]セクションに EMMExclude 項目も追加する必要があります。(記述例)

```
EMMExclude=C800-CFFF
```

「/MEM=」の記述を省略した場合は、メモリ・ウィンドウの開始セグメント・アドレスが「CE00」となり、「CE00 ~ CFFF」までの 8 Kバイトを使用します。

PC カードドライバについて

MS-DOS上でPCカードスロットおよびPCカードを使用するために専用のデバイスドライバを組み込む必要があります。このドライバソフトは「カードサービス」と呼ばれ、通常パソコン本体のメーカーより提供されているため、本製品には添付していません。

対応するカードサービスについて

本製品に添付するDOS用ドライバ「REX5571.SYS,REX9871.SYS,REX4871.SYS」は「カードサービス」の機能を使用してPCカードを制御します。本製品ではPCMCIA 2.0以降のカードサービスに対応しており、現在動作を確認済みの「カードサービス」のベンダーおよびバージョンは以下のとおりです。

種類およびバージョン	ドライバ・ファイル名	パソコン機種
IBM版 Play At Will	IBMDSS01.SYS, IBMDOSCS.SYS	DOS/V パソコン
IBM版 PCMCIA 2.00相当 (ATバス用)	IBMDSS01.SYS, IBMDOSCS.SYS	IBM ThinkPad(ATバス) Panacom PRONOTE_jet
IBM版 PCMCIA 2.00相当 (MCAバス用)	IBMDSS02.SYS, IBMDOSCS.SYS	IBM ThinkPad(MCAバス)
IBM版 PCMCIA 1.07相当	DICSS001.SYS, DICCS.SYS	IBM ThinkPAD
SystemSoft版 PCMCIA 2.01相当 v4.11	SS365SL.EXE, SSCIRRUS.EXE, SSDBOOK.EXE, CS.EXE, CIC.EXE	
SystemSoft版 PCMCIA 2.01相当 v4.12 PCMCIA 2.10相当 v2.0x	SS365SL.EXE, SSCIRRUS.EXE, SSDBOOK.EXE, SSVADEM.EXE, CS.EXE, CSALLOC.EXE	SOTEC WiNBook IDEXON NT66CL2 DELL Latitude
SystemSoft版 PCMCIA 2.10相当 v2.0x	SSVLSI.EXE, CS.EXE, CSALLOC.EXE	COMPAQ CONTURA AERO 4/25, 4/33C
Phoenix Technologies版 PCMPLUS PCMCIA 2.00相当 v1.0 PCMCIA 2.10相当 v2.2x	PCMSS.EXE, PCMCS.EXE, PCMSCD.EXE	FUJITSU FM-V NoteBook TOSHIBA DynaBook V486FV, EZVison, SS433, SS425
Phoenix Technologies版 PCMPLUS PCMCIA 2.10相当 v3.x	CNFIGNAM.EXE PCMSS.EXE, PCMCS.EXE, PCMSCD.EXE	FUJITSU FM-V BIBLO TOSHIBA DynaBook GT450, SS450, GT475, , SS475, SS-R590
DATABOOK版	SOCKET.SYS, CTALKCS.EXE, CARDTALK.SYS	MDT Arowana
SystemSoft版 PC98対応 PCMCIA 2.10相当v2.06	SSDRV.SYS, CS.EXE CSALLOC.EXE	NEC PC-9821シリーズ
SystemSoft版EPSON PC 対応 PCMCIA 2.10相当v4.17	SS.EXE, CS.EXE CSCALLOC.EXE	EPSON PCシリーズ (98互換機)

また、IBMから発売されている「PC-DOS J6.1/V」「PC-DOS J6.3/V」「PC-DOS J7.0/V」に含まれているPhoenix Technologies版のカードサービスでも動作が確認されています。

「DATABOOK CardTalk」について

DATABOOK社のPCMCIAコントローラが搭載されているパソコンでは、「CardTalk」と呼ばれるドライバが提供されていることがあります。

この場合は、CardTalk用の「REX71DBK.SYS」を用意していますので、そちらをお使いくください。

種類およびバージョン	ドライバ・ファイル名	パソコン機種
DATABOOK CardTalk v2.20.14, v2.20.12	CARD SOCK.SYS, SS_1.SYS, SOCKET.SYS, CARDTALK.SYS	PCiN P-NOTE, P-BOOK AT&T WaveNote MDT Arowana 日本サーテック TinyNote

「PCMCCU」について

CONFIG.SYSファイルに「PCMCCU.EXE」を含むドライバが登録されている場合は、PCMカードドライバとしてPhoenixTechnologiesの「PCMCCU」が組み込まれています。PCMCCUは、PCMCIAのカードサービス、ソケットサービスの規格とは互換性がないため、以下のようにこれらのドライバが登録されないようにしてください。

```
REM DEVICE = C:¥DOS¥PCMSS.EXE
REM DEVICE = C:¥DOS¥PCMFFSII.EXE
REM DEVICE = C:¥DOS¥DBLFLASH.EXE
REM DEVICE = C:¥DOS¥MS-FLASH.EXE
REM DEVICE = C:¥DOS¥PCMCCU.EXE /WINDOW=CC
```

そして、後述「カードサービスがない場合」で説明する対処を行ってください。

カードサービスがない場合(REX-5571のみ)

パソコンによってはカードサービスが提供されていない場合があります。そういう場合は、まずパソコン本体のメーカーや販売店にお問い合わせください。ここでは、メーカーや販売店がカードサービスを提供していない場合の対処方法について説明します。

別途カードサービス用意する

別途カードサービスを用意するには次の2つの方法があります。

IBMのカードサービス「Play at Will」を使用する。

「IBM版カードサービス Play At Will Ver3.xx」または、「IBM版カードサービス Play At Will Ver2.xx」を別途用意してください。

IBMの「PC-DOS J7.0/V, J6.1/V, J6.3/V」に含まれている「PCPLUS」を使用する。PC-DOS J6.1/V, J6.3/V, J7.0/VのセットアップでPCMCIAを使用するように設定してください。

マイクロソフト社のMS-DOS 5.0/V や MS-DOS 6.2/V にはカードサービスが含まれていませんので注意してください。

カードサービスを使用しない

カードサービスを使用しない場合、次のいずれかの条件であれば使用可能です。
ただし、活線挿抜機能には対応しません。

PCMCIA コントローラが DATABOOK 社の LSI で CardTalk が提供されている場合 CONFIG.SYS ファイルに「CARDTALK.SYS」を含むドライバが登録されている場合は、PC カードドライバとして CARDTALK が組み込まれています。

この場合は、REX71DBK.SYS を組み込めば使用可能です。

PCMCIA コントローラが i82365 およびその互換 LSI の場合

後述の「PCMCIA コントローラ (i82365) の確認方法」で確認できた場合は、REX71365.SYS を組み込めば使用可能です。

PCMCIA コントローラ (i82365) の確認方法

パソコン側にカードサービスもソケットサービスも用意されていない場合、PCMCIA コントローラ LSI を直接制御するタイプの APSI マネジャ「REX71365.SYS」を使用します。しかし「REX71365.SYS」ではインテルの ExCA 規格に基づいたハードウェアを想定していますので、DATABOOK 社製コントローラ上では動作しません。使用されている PCMCIA コントローラの種別は下記の方法で簡単に調査することができます。

- (1) MS-DOS の「DEBUG.COM」というコマンドを起動します。このコマンドは通常 MS-DOS の標準ユーティリティのあるディレクトリに存在します。
- (2) I/O ポート「3E0」に「00」を書き込みます。
- (3) I/O ポート「3E1」の内容を読みだします。
- (4) 確認したら、「q」コマンド入力して「DEBUG」を終了します。

```
C:¥DOS> DEBUG <Enter> (1)
-o 3E0 0 <Enter> (2)
-i 3E1 <Enter> (3)
-83
-q <Enter> (4)
C:¥DOS>
```

読みだした内容が「8x」であればインテル 82365 または互換製品が使用されていますので「REX71365.SYS」は動作します。

読みだした内容が「FF」であった場合、「REX71365.SYS」は使用できません。

システム起動時のエラーについて

SystemSoft 版カードサービス起動時のエラー

SystemSoft 版カードサービス起動時の「CSALLOC.EXE」をロードするときに、下記のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
*** Parsing Error:
```

```
*** Card Service Error:
```

```
WARNING:Conflict detected with Memory Range at base address XXXX
```

```
WARNING:Conflict detected with IO Range at part address XXXX
```

```
WARNING:Conflict detected with IRQ(s) starting at IRQ X
```

原因 ・ CSALLOC.INIファイルの登録内容がハードウェアと一致していない。
・ CSALLOC.INIの記述の書式に誤りがある。

対処 ・ 「CSALLOC.EXE」を実行してリソース定義ファイル「CSALLOC.INI」を更新します。

パソコンメーカーおよびバージョンによって CSALLOC.EXE のパラメータが異なりますのでマニュアルで確認の上実行してください。

実行例

```
C:¥> CHEV US /F <Enter>  
C:¥> CD ¥CARDSOFT <Enter>  
C:¥CARDSOFT> CSALLOC /G <Enter>
```

英語モードに切り換えます
カレントディレクトリをカードサービス・プログラムが存在するディレクトリへ移動
「CSALLOC.EXE」を「/G」オプションを付けて実行

上記の例では、CSALLOC.EXE を「/G」オプションを付けて実行していますが、オプションが必要ない場合や「/D」オプションを指定する場合があります。

CSALLOC.INI ファイルは、テキスト形式ですがエディタ等で修正せずに必ず上の方法で更新してください。

「CSALLOC.INI」を更新した後は、必ずシステムを再起動してください。

Phoenix Technologies版カードサービス起動時のエラー

Phoenix Technologies 版カードサービス起動時に、下記のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
WARNING:Command-line ignored
```

```
WARNING:Command-line parameters ignored
```

```
WARNING:Ignore the command options in the CONFIG.SYS
```

原因 ・ 組み込まれているPCM PLUSがバージョン3以降にもかかわらずバージョン2.x以前のパラメータ指定になっている。

対処 ・ ドライバ登録行でのパラメータ記述を削除します。

6. オーディオラックの使用法

Audio Rack 95 は、Windows NT4.0でも実行できますが、オーディオプレーヤー、CDプレーヤーは使用できません。

オーディオラックについて

- ・オーディオラックを使ってサウンドカードの機能を手軽に引き出すことができます。

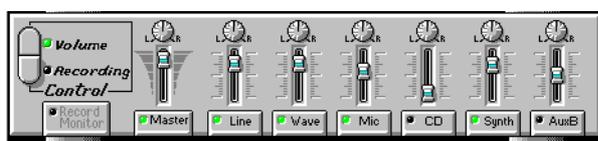


コントロールパネルとよばれるオーディオラックの最上段にある絵をクリックし、オーディオラックの各装置を呼び出します。

- ・コントロールパネルの左 4 つのボタンによりオーディオラックの各ユニットを ON/OFF します。



- ・各ボタンからは以下のユニットを呼び出します。



ミキサー

サウンドカードに接続された各チャンネルのボリューム/録音レベルを調整します。



オーディオプレーヤー

オーディオプレーヤーは WAVE ファイル (*.wav)を再生・録音します。



MIDI プレーヤー

MIDI ファイル (*.MID)を再生します。
録音機能はありません。



CD プレーヤー

音楽CDの選曲や繰り返しなどを操作します。

- ・コントロールパネルの残りの 2 つのボタンには以下の機能があります。



ヘルプボタン

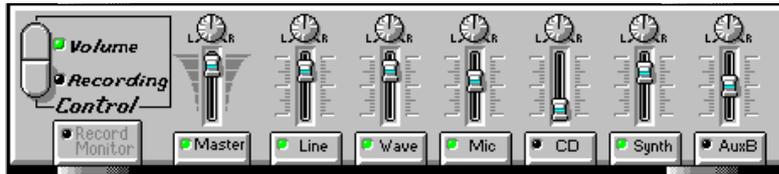
オンラインヘルプを呼び出します。



終了ボタン

オーディオラックを終了します。

ミキサーの操作方法



SOUND PC カードに接続された各チャンネルのボリューム/録音レベルを調整します。

ただし、ミキサーのパネル上の **CD**、**AuxB** は SOUND PC カードから直接接続されているポートが存在しないため設定はどこにも反映されませんのでご注意ください。
CD の音量は CD-ROM ドライブ側で調整してください。



各チャンネルの音を有効/無効を切り替えます。

Master...全体

Line...Line 入力

Wave...WAVE ファイル入出力

Mic...マイク入力

CD... なし。本製品ではどこにも反映されません

Synth...MIDI ファイル再生出力

AuxB... なし。本製品ではどこにも反映されません

緑色のランプが点灯している場合はその装置の音が有効になっています。



再生

録音

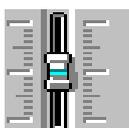
再生音量調整と録音音量調整を切り替えます。



オーディオラックでの録音を行う際のモニター設定です。



各チャンネルのステレオバランスを調整します。



各チャンネルの音量/録音レベルを調整します。

WAVE ファイルの録音がうまくいかない場合は装置の音が無効になっている場合があります。録音する装置が有効になっているか確認してください。

録音中の音が聞こえない

録音調整の録音モニターボタンを有効にしてください。

オーディオプレーヤーの操作方法 (Windows 95 のみ)

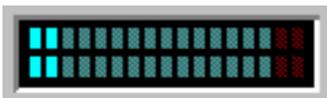


オーディオプレーヤーは WAVE ファイル(*.wav)を再生・録音します。
録音データを直接ハードディスクに記録するので、録音可能な時間はハードディスクの空き容量に依存します。

Edit ボタンによりオーディオレコーダーを呼び出し、様々なファイルの編集が行えます。
オーディオレコーダについては後で説明します。

録音上の注意

オーディオプレーヤーではハードディスクへ直接データを書き込みますので、本体の CPU 速度、メモリ、ハードディスクの性能によっては 44kHz のステレオ録音でデータが途切れることがあります。この場合はサンプリングレートを 22kHz 以下に落として録音を行ってください。



レベルメーター

WAVE ファイル再生中の出力レベルメーターです。

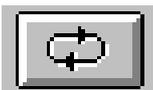


ディスプレイ

再生時間が表示されます。

また、再生/オートリピート/一時停止の状態などが表示されます。

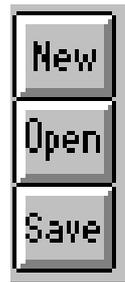
絵をクリックすると再生中の WAVE ファイルのタイトルと長さが表示されます。



オートリピートボタン
ストップボタンを押すまで繰り返し再生します



Edit (編集) ボタン
オーディオレコーダーが起動し、ウェーブファイルの編集等が行えます



New 新しいファイルを作成します

Open 既存のファイルを開きます

Save ファイルを保存します



再生/録音を停止
再生を一時停止
再生を開始
録音を開始



終わりまで移動
先頭まで移動
1秒早送り
1秒巻き戻し

MIDI プレーヤーの操作方法



Windows 95 / NT 用 MIDI プレーヤー

MIDI プレーヤーは、MIDI ファイル(*.MID)を再生します。

MIDI プレーヤーでは最初に、PlayList ボタンを押して再生する MIDI データを設定しておかないと再生できません。



PlayList ボタンを押すと左図の画面が表示されます。画面右下のボタンを使用して再生する MIDI データを設定していきます。

演奏リストの設定

MIDI プレーヤーでは複数の曲をリストに登録して演奏することが可能です。また、演奏曲のリストはファイルとして保存できます。

演奏リストへ追加..... 選択したファイル(曲)を演奏リストへ追加します。

すべて追加..... 表示されているすべてのファイルを演奏リストへ追加します。

リストから外す..... 選択したファイルを演奏リストから外します。

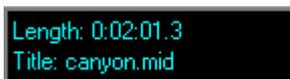
リストのクリア..... 演奏リストをすべてクリアします。

リストを開く..... 保存してある演奏リストファイルを読み込みます。

リストファイルの保存.. 演奏リストをファイルとして保存します。



現在演奏している曲の番号を表示します。



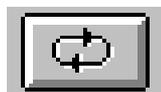
クリックすると演奏している曲の長さやファイル名が表示されます。



再生を開始
再生を一時停止
再生を停止



1秒巻き戻し
1秒早送り
演奏中の曲の先頭へ移動
次の演奏曲の先頭へ移動



オートリピートボタン
ストップボタンを押すまで繰り返し再生します



PlayList ボタン
演奏する曲を設定するダイアログを開きます

CD プレーヤーの操作方法 (Windows 95 のみ)



CD プレーヤーは、音楽 CD の選曲や繰り返しなどを操作します。

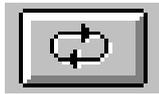
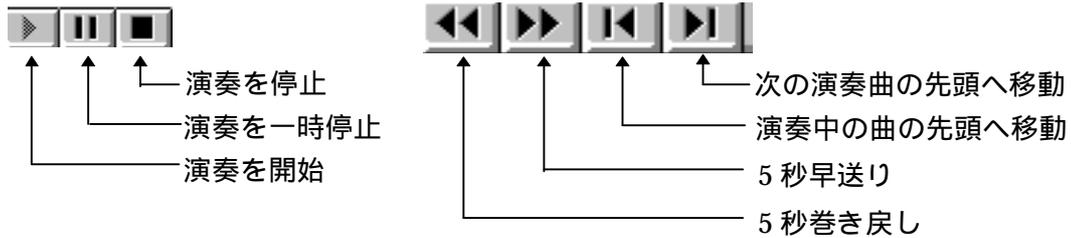
CD-ROM ドライブが使用可能な状態では CD プレーヤーが表示されます。

演奏リストの設定

CD プレーヤーでは複数の曲をリストに登録して演奏することが可能です。また、演奏曲のリストはファイルとして保存できます。

- 演奏リストへ追加**..... 選択したファイル(曲)を演奏リストへ追加します。
- すべて追加**..... 表示されているすべてのファイルを演奏リストへ追加します。
- リストから外す**..... 選択したファイルを演奏リストから外します。
- リストのクリア**..... 演奏リストをすべてクリアします。
- リストを開く**..... 保存してある演奏リストファイルを読み込みます。
- リストファイルの保存**.. 演奏リストをファイルとして保存します。
- シャッフル**..... 演奏リストの曲をランダムに演奏します。

第6章 オーディオラックの使用法



オートリピートボタン
ストップボタンを押すまで
繰り返し再生します



PlayList ボタン
演奏する曲を設定するダイアログを開きます



↑
CD-ROMドライブのトレイを出し入れします。
(制御可能なものに限り)

CD を挿入するとMicrosoft CD プレーヤーが起動してしまう場合

[Shift] を押しながら CD を挿入する。

ファイルタイプの設定で自動再生を無効にする。

1. [マイコンピュータ] - [表示] メニューの [オプション...] を開きます。
2. [ファイルタイプ] で [音楽 CD] を選んで [編集(E)...] を開きます。
3. [アクション] の [再生(P)] をクリックし、[標準] ボタンをクリックして [再生(P)] の文字を細字に変えます。

詳しくは、Microsoft CD プレーヤーの [ヘルプ(H)] - [トピックの検索] で「自動再生を行わないようにする」をご覧ください。

7. オーディオレコーダの使用法

オーディオレコーダについて

- ・オーディオレコーダは16ビット / 44.1kHzのステレオ録音・再生機能と様々な編集機能を備えたアプリケーションです。
- ・モノラル・ステレオの切り替え、圧縮のレベル、サンプリングレートの調整など、目的にあわせて録音設定の変更ができます。
- ・録音した音はオーディオラックのオーディオレコーダで再生できます。
- ・OLEをサポートしたワープロで作成した文書に、オーディオレコーダで作ったサウンドオブジェクトを貼りつけることが可能です。
- ・オーディオレコーダによって録音・編集・再生したWAVEファイルはWindowsに添付のサウンドレコーダや、PCM形式により録音・再生を行う他のレコーダとも互換性があります。
- ・line-inを通してカセットテーププレーヤー、CDプレーヤー等の接続も可能です。

オーディオレコーダの使用法

オーディオレコーダのアイコンをダブルクリックしてください。下図のようなオーディオレコーダのウィンドウが表示されます。



オーディオレコーダメニューコマンド

ファイル

- 新規..... サウンドファイルを新規作成します。
- ファイルを開く..... 既存のサウンドファイルを読み込みます。
- 保存..... サウンドファイルを現在の名前で保存します。
- 名前を付けて保存... 保存する前にファイルに名前を付けます。
- 復元..... ファイルを開いてからの様々な変更を取り消し、前回セーブした状態にします。
- プロパティ..... プロパティダイアログボックスが表示されます。サウンドファイルのプロパティを参照・変更できます。
- 終了..... オーディオレコーダを終了します。



ファイルメニューの**名前を付けて保存**を選択するとダイアログボックスが表示されます。保存するドライブ、ディレクトリを選び、ファイル名を入力してください。

編集

- 取り消し..... カット・貼り付け等の操作を取り消します。（操作の直後のみ有効）
- カット..... 範囲指定した音を消去し、クリップボードへ記憶します。
- コピー..... 範囲指定した音を消去せずにクリップボードへ記憶します。
- 貼り付け..... カーソルの場所にクリップボードの情報を貼り付けます。音が範囲指定されている場合はその部分のデータがクリップボードの音と入れ替わります。
- 貼り合わせ..... 波形上のカーソルの場所を始点として音がクリップボードの音とミキシングされます。

- 消去..... 指定した範囲の音を消去します。他の操作をする前に取り消しのコマンドを使えば消えた音は復元します。

- 消音..... 範囲指定した音を消音し、無録音状態にします。他の操作をする前に取り消しを使えば消音された音は復元します。
- 全範囲選択..... 全体を指定範囲にします。
- ズームイン..... 表示されている波形を部分拡大します。
- ズームアウト..... 波形を縮小します。
- ファイルの挿入... クリックするとダイアログボックスが表示されます。現在開いているファイルのカーソル部へ挿入するファイルをここで選択します。範囲指定がなされている場合、挿入したサウンドファイルが指定範囲部分と入れ替わります。
- ファイルとのミキシング クリックするとダイアログボックスが表示されます。ここで選択したサウンドファイルは現在のファイルのカーソル部からミキシングされます。

オプションメニュー

オプションメニューで、ボリュームコントロール、レコーディングコントロール、ミキサーを開くことができます。

繰り返し..... サウンドファイルを繰り返し再生します。

手前に表示..... このスイッチを有効にするとオーディオレコーダが他のウィンドウの手前に表示されます。

エフェクトメニュー

エフェクトコマンドは指定範囲の波形を変化させるものです。

ファイルメニューの復元コマンドを使えばファイルを最後に保存した時の状態に戻すことができます。

増幅..... 指定した範囲の波形を増幅します。

ボリューム.... 範囲指定した音量が25%の割合で増減します。

再生速度..... 指定範囲の音の再生を倍の速さ・遅さにします。

フェード..... 指定範囲の音をフェード・イン（徐々に大きく）またはフェード・アウト（徐々に小さく）します。

エコー..... ダイアログボックスが表示され、指定範囲の音を対象としたエコーの時間と音量を設定できます。

リバース..... 指定した範囲の音を逆転します。

ヘルプメニュー

目次..... オーディオレコーダのヘルプが表示されます。

バージョン情報..... バージョン及び著作権が表示されます。

ツールバー



よく使用するコマンドがツールバーボタンとして用意されています。それぞれの機能は次の通りです。



録音方法

録音方法を順を追って説明していきます。

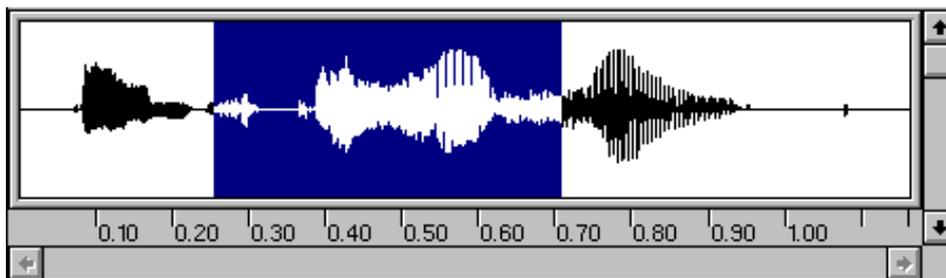
1. ファイルメニューを開いて新規を選択すると右図のダイアログボックスが表示されます。サンプリングレート、録音形式の設定を行ってOK ボタンを押します。サンプリングレートの数値が大きいほど作成されるファイルのサイズも大きくなります。
2. 音源としてマイクあるいは line-in につないだ CD プレーヤー等を準備し、録音ボタンをクリックして録音を開始します。
3. 停止ボタンをクリックして録音を終了します。
4. ファイルメニューを開き名前を付けて保存を選ぶとダイアログボックスが表示されます。ディレクトリを選んでサウンドファイルの名前を入力し、OK ボタンをクリックして保存します。



高いサンプリングレート(44kHz, ステレオ)等で録音を行う場合、コンピュータの CPU や環境などによりサウンドデータが途切れたりすることがあります。また、録音可能な時間はメモリの容量に依存します。

サウンドファイルの再生

ファイルメニューから**ファイルを開く**を選び、サウンドファイルを読み込みます。再生ボタンをクリックしてサウンドファイルを再生します。オーディオレコーダの中央には現在のサウンドファイルが波形として表示されています。垂直・水平スクロールバーを使ってこの表示を調整します。



波形の一部を拡大して見るには垂直スクロールボタンを下げ、波形を縮小するためには垂直スクロールバーを上げます。表示より前や後の波形を見るためには水平スクロールバーの左右をクリックします。サウンドファイルのデータの一部を再生するためには、マウスで波形の一部を範囲指定し、再生をクリックします。範囲指定を解除するには波形表示部の適当な場所をクリックします。サウンドファイル全体を選ぶ場合には波形表示部の適当な場所をダブルクリックします。

サウンドファイルの編集

サウンドファイルの様々な編集方法について説明をします。

音を消す(消去)

マウスを使い、消す範囲を指定します。全体を指定するには波形表示部をダブルクリックします。

キーボードのDelキーを押すか、編集メニューの消去を選びます。選択部分の音が消え、その前後がつながります。

消した部分を復元するには他のコマンドを選ぶ前に取り消しをクリックします。

音を消す(消音)

消音したい部分の波形をマウスで選びます。

編集メニューの消音をクリックします。選んだ波形部は平らになり、無録音状態になります。

消音した部分を復元したい場合には他のコマンドを選ぶ前に取り消しを選択してください。

* 消去と消音の違い

消去は指定した範囲を完全に消しますが消音は無録音状態にするだけです。例えば10秒のサウンドファイルを編集する際に、3秒間の音を範囲指定して消去した場合、全体の長さが7秒になりますが、消音した場合は10秒のままです。

音の移動・コピー

移動、コピーしたい部分をマウスで選びます。

編集メニューのカットを選択すると選んだ部分の波形が消えてクリップボードに記憶されます。コピーを選択した場合には範囲指定部分は消えないままクリップボードに記憶されます。クリップボードの内容を貼り付けたいところへカーソルを移動し、貼り付けを選択します。

音の挿入

クリップボードの音を挿入したい波形部分にカーソルをもっていきます。

貼り付けを選択するとクリップボードに記憶されていた波形がカーソル部に挿入されます。元の音は消えません。

範囲指定部分とクリップボードの音との入れ換え

入れ換えたい部分の波形をマウスで選びます。

貼り付けボタンをクリックします。選んだ部分にクリップボードの音が貼り付けられます。

範囲指定部分の音とクリップボードの音とのミキシング

波形表示部の一部をクリックします。コマンドの貼り合わせを選択すると、クリップボードに記憶されている音がミキシングされます。

他のサウンドファイルの挿入・入れ替え

サウンドファイルを挿入したい波形部にカーソルを移動します。入れ替えの場合は入れ換えたい範囲を指定します。

編集メニューからファイルの挿入を選ぶとダイアログボックスが表示されます。ファイルに挿入したいファイルを選びます。音が範囲指定されている場合にはファイル上の音が範囲指定部分と入れ替わります。

他のサウンドファイルのミキシング

ミキシングを行いたい場所へカーソルをもっていきます。

編集メニューのファイルとのミキシングを選ぶとダイアログボックスが開きます。現在のファイルとミックスしたいファイルを選びます。

エフェクトによるファイルの編集

エフェクトのコマンドについてはオーディオレコーダのエフェクトの項に記してあります。これらのコマンドは指定した範囲の波形を変化させることができます。範囲指定を行わない場合はファイル全体が影響を受けます。

コマンドの主な効果は次の通りです。

- 増幅..... 波形を大きくします。
- 音量..... 音量の増減を調整します。
- 再生速度..... 音の再生速度を変えられます。
- フェード..... フェードインまたはフェードアウトします。
- エコー..... エコーの時間、大きさを設定します。
- 逆転再生..... 指定範囲の音を逆転します。

文書への貼り付け

オーディオレコーダで作成したサウンドファイルをOLEに対応したワープロで作成した文書に貼り付けることができます。

ワープロで作成した文書を開きます。

オーディオレコーダへ貼り付けるファイルを読み込み、クリップボードへ貼り付けます。

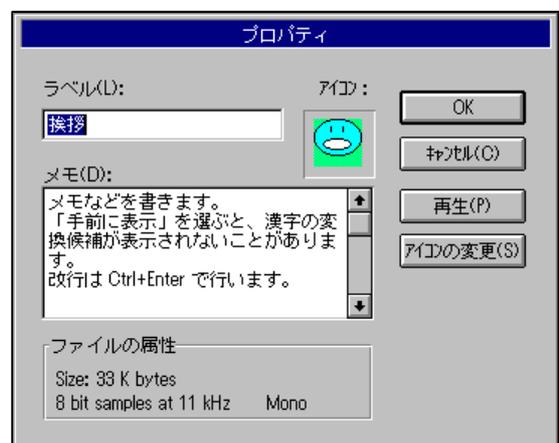
アプリケーションをワープロへ切り替え、音を貼り付ける場所へカーソルを移動します。クリップボード上のデータを貼り付けるコマンドを実行してください（通常は貼り付け）。

カーソル位置にサウンドファイルのアイコンが表示されます。

文書内のアイコンをダブルクリックするとサウンドファイルが再生されます。

サウンドファイルのプロパティ

- ・サウンドファイルには音以外のデータも含まれています。ファイルメニューの**プロパティ**を選び、タイトルやメモ、アイコンを割り当てることができます。
- ・初期設定として割り当てられているアイコンをオリジナルのアイコンに変更するには**アイコンの変更**ボタンをクリックします。
- ・オーディオレコーダーのオプションで「手前に表示」を選んでいないと漢字の変換候補が表示されない場合があります。



8. トラブルシューティング

Microsoft SideWinder 3D Pro を使用する場合

Microsoft SideWinder 3D Pro では、いくつかの制限があります。

必ず、Microsoft SideWinder 3D Pro に添付の説明書およびフロッピーディスク内の README ファイルをご覧ください。また、デジタルモードで使用する場合は、以下の制限があります。

<<DOS/V の場合>>

SideWinder 添付のドライバが I/O ポート 201h にのみ対応のため、Sound/Joystick PC カードのジョイスティックポートの I/O ポートが 201h 以外に割り当てられるパソコンではご使用できません。

<<pc - 98 の場合>>

デジタルモード用のドライバがインターネットのマイクロソフトのホームページに登録されています。このドライバをダウンロードしてインストールしないと、ご使用できません。

インストールの手順：

1. Windows 95 へのインストールにしたがって、Sound/Joystick PC カードのドライバをインストールします。
2. 次に、Microsoft SideWinder 3D Pro に添付のフロッピーディスクからドライバをインストールします。
3. 最後に、[コントロールパネル]の[ジョイスティック]アイコンを起動して、[Microsoft WINDER 3D Pro]を選択します。

Joystick を使用できない場合

Q:

正しくセットアップできたにも関わらず、Joystick が使用できません。

A:

内蔵の Joystick が有効になっている場合に起こります。使用不可に変更してください。また、接続をしっかりと確認してください。

システム資源のIRQ に空きがない場合

Q:

IRQ に空きがあるかのチェックにおいて、すでにすべての IRQ が使用済みとなっています。PC カードは使用できないのでしょうか。

A:

システム BIOS の設定で使用しないデバイスを無効 (Disable) にします。
たとえば、COM2、パラレルポート等を使用しないに設定します。
設定の方法については、パソコンに添付の BIOS 設定方法が書かれてあるマニュアルを参照してください。

スピーカからの出力が非常に小さい場合

Q:

添付のイヤホンを使用して、ボリュームコントロールで最大の設定にしてもあまり大きな音量が出力されません。

A:

あまり大きな音量は出力されません。アンプ付きスピーカを接続してください。

その他のデバイスに ?PCMCIA Card がある場合

Q:

Windows 95B(OSR2)の場合、「その他のデバイス」のカテゴリの中に「?PCMCIA Card Services」または「?PCMCIA カードサービス」という項目が表示されます。
問題ないのでしょうか。

A:

?マークはエラーではありません。
PC カードを挿入すると「その他のデバイス」に現れます
この項目を削除しないでください。もし誤って削除した場合、PC カードを使用できなくなります。

ドライバをインストールしたが、音が出ない。

➡まず、I/OポートかIRQが他の装置と競合していると考えられます。

ノートパソコン等でサウンド機能が最初から付いている機種の場合は以下の手順で内蔵サウンド機能を切り離してからドライバを再インストールします。

- (1) パソコン本体添付の取り扱い説明書に従って内蔵サウンド機能を [使用しない] に設定します。
- (2) 本書の「Windows 3.1でのセットアップ」に従ってドライバをインストールします。

Windows 3.1 起動時にエラーメッセージが表示される

➡Sound/Joystick PCカードが正しく挿入されていないと考えられます。

サウンドドライバをインストールすると、Windows 3.1は起動時に音を出しようとして、このときにSound/Joystick PCカードが見つからないドライバがエラーメッセージを表示します。このエラーメッセージは無視しても問題ありませんが、表示させたくない場合は「Setup.exe」で「ドライバのアンインストール」を実行してドライバを外してください。

また、システム起動時にカードが挿入されていない場合も同様の現象が発生します。カードサービスの設定が正しく行われていない場合にもPCカードは使用できません。この場合の原因としてメモリウィンドウが正しく確保されていないことなどが考えられます。

➡カードサービスは本体メモリの一部を使ってPCカードの情報を呼び出します。この範囲をメモリウィンドウと呼びます。EMM386.EXE等のEMSマネージャを使用する場合、カードサービスがメモリウィンドウとして使用する範囲(カード情報をメモリに読み込むために必要)をEMSマネージャが重複して使わないように指定する必要があります。

例えばカードサービスがDC00-DFFFをメモリウィンドウとして使用している場合、CONFIG.SYSに登録されているEMM386.EXEにX=DC00-DFFFというオプションを付加する必要があります。

Windows 3.1で使用する場合

同様にWindows 3.1がこのメモリウィンドウを使用しないようにする必要もあります。Windowsのディレクトリ内にSYSTEM.INIというファイルがありますが、この[386Enh]セクションでEMMExclude=というエントリを追加することでWindows 3.1で使用するメモリ範囲を指定できます。前述のようにカードサービスがDC00-DFFFをメモリウィンドウとして使用している場合、**EMMExclude=DC00-DFFF**という記述を追加して下さい(カードサービスのインストーラによって追加されている場合もあります)。

9. 付録

製品仕様

Sound/Joystick PCカード	PC Card Standard 準拠
対応Joystick	IBM PC/AT用Joystick
FM音源	ESS1688 20 Voice FMシンセサイザ
PCM音源 (録音・再生)	モノラル / ステレオ 8bit / 16bit D.C ~ 44.1 KHz
MIC-IN	モノラル 端子形状---- 3.5 ミニジャック 入力レベル--- 4mVP-P ~ 125mVP-P 入力インピーダンス --- 30K ~ 100 K
LINE-IN	L/Rステレオ 端子形状---- 3.5 ミニジャック 入力レベル--- 0.5VP-P ~ 4.5VP-P 入力インピーダンス --- 30K ~ 100 K
LINE-OUT	L/Rステレオ 端子形状---- 3.5 ミニジャック 出力レベル--- 0.5VP-P ~ 4VP-P(5 K 負荷) 出力インピーダンス --- 3.5K ~ 6.5K (5 K 標準)
MIDIポート	IN / OUT / THRU 端子形状---- DIN 5Pジャック 入出力レベル--- MIDI規格準拠カレントループ信号
ソフトウェア互換性	WSS規格API / AdLib FMシンセサイザレジスタ
電源電圧・消費電流	+5V・140mA MAX
割り込み	OSによって割り当てられる IRQを使用
選択可能 I/Oアドレス Windows 95 :	201h固定 1byte (Joystick) 240h-24Fh / 260h-26Fh / 280h-28Fh / 2A0h-2AFh / 2C0h-2CFh / 300h-30Fh / 340h-34Fh /360h-36Fh / 3A0h-3AFh / 3C0h-3CFh 32byte (Sound)
選択可能 I/Oアドレス Windows NT :	201h固定 (Joystick) 320h-331h / 240h-24Fh / 260h-26Fh / 280h-28Fh /2A0h-2AFh / 2C0h-2CFh / 300h-30Fh / 340h-34Fh /360h-36Fh / 3A0h-3AFh / 3C0h-3CFh 32byte (Sound)

REX-5571/9871/4871 質問用紙 (拡大コピーの上ご記入ください)

下記ユーザ情報をご記入願います。

法人登録の方のみ	会社名・学校名			
	所属・部署			
氏名				
住所	〒			
TEL		FAX		
製品型番	REX-	シリアル番号		
販売店名		購入年月日		

下記パソコン環境情報をご記入願います。

パソコン機種名			
使用 OS	Windows 95	Windows 95B(OSR2)	Windows NT4.0
	Windows 3.1(DOS Ver)	
カードサービス名			

質問内容：

添付資料：インストール等に関するご質問の場合は、下記データが必要です。送付して頂いたデータをチェックしてください。

CONFIG.SYS AUTOEXEC.BAT SYSTEM.INI

CSALLOC.INI PCM.INI

デバイスマネージャのシステム概要 ¹ Windows NT 診断プログラムのレポート ²

1 デバイスマネージャのシステム概要 (Windows 95 のみ)

- (1) デバイスマネージャから[印刷(N)...]ボタンを押します。
- (2) レポートの種類に「すべてのデバイスとシステムの概要」を選択して [OK] ボタンを押します。

2 Windows NT 診断プログラムのレポート (Windows NT のみ)

- (1) Windows NT 診断プログラムを起動し [ファイル] メニューから[レポートの印刷(N)...]ボタンを押します。
- (2) ドライバ, ドライブ, デバイス, IRQ/ポート, DMA/メモリ をチェック選択して [OK] ボタンを押します。